

C 日本の様々な地域

(1) 地域調査の手法

本単元の目標

ア 場所などに着目して、課題を把握し将来像を予測する学習や、それらを追究したり、解決したりする活動を通して、課題解決のための社会参画に向けた観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解し、地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付ける。

イ 課題を把握し将来像を予測する学習や、それらを追究したり、解決したりする活動を通して、地域調査における対象となる場所の特徴などに着目し、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果をもとに多面的・多角的に考察し、表現する。

ウ 自分の住む地域への関わり方に着目し、東北、関東地方及び身近な地域それぞれの課題に対して、見通しをもって取り組み、学習の成果を活かしながら地域の担い手として改善を加えようとして、周囲に発信しようとする。

■単元を貫く問い

「私たちが暮らす江古田や沼袋は、首都直下型地震発生によってどのような影響を受けるだろうか？」
 ◇この単元で「動かせる見方・考え方」

既習事項や主題図などの諸資料を活用し、「位置」「場所」「分布」といった見方・考え方を働かせて地域的特色を捉える。

時	学習項目	学習課題(目標)	学習内容と主な活動	指導上の留意点	4つの力			評価の観点(学方の3要素)
					予測	対応	共生	
1	江古田、沼袋の大観①(座学)	学校周辺の“江古田や沼袋”を大観しよう①	○江古田や沼袋の位置、場所を中野区、東京など大きな範囲の中で捉える ○区勢データなどから、江古田や沼袋の特色を読み取り、今後の学習の見通しを立てる ○方位、縮尺など読図から地理的技能を身に付ける ○地図から、寺院の教を読み取る	○防災、人口、産業、交通などの視点から捉えさせる ○関東地方でも更に詳しく返し練えるために、丁寧に確認させる ○学校周辺に寺院の数が多くことに気づかせる(理由は、関東地方の学習でつなげる)				主：江古田や沼袋周辺で見られる課題を主体的に追究し、地域の担い手として地域をよりよくするための提言や発信、社会参画などに結び付けようとしている 知：地域の課題解決に向けた発信のための観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法など地理的技能を身に付けている
2	江古田、沼袋の大観②(座学)	学校周辺の“江古田や沼袋”を大観しよう②	○江古田や沼袋周辺の地形図を読み取る学習を通して、地図記号や等高線など地理的技能を身に付ける					知：江古田や沼袋周辺の地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成など地域の課題解決に向けた発信に活用するための地理的技能を身に付けている
3	フィールドワーク(巡回型)	江古田や沼袋の特色を体験的に捉えよう	○教師主導による一斉巡回型のフィールドワークで、江古田や沼袋の地域的特色を体験的に捉える	○次の学習における仮説に向けて、防災の視点で捉えさせる(巡回の設定)				思：位置や分布、場所などの視点を基に、野外調査を通してこれからの地域の将来像について、多面的・多角的に考察している 知：江古田や沼袋周辺の地域調査を通して、地域の課題解決に向けた発信に活用するための地域的特色を捉え、理解している
4	仮説の立案	首都直下型地震による江古田や沼袋周辺への影響について、仮説を立てよう	○首都直下型関連の動画を見て、今後の学習の見通しを立てる ○前時のフィールドワークをもとに、想定される影響を考察する	○ANN NEWS「4年以内に“70%”M7クラスの首都直下型地震(気象庁)」の映像(1分程度)を見せ、自分事として今後の学習の意味をもたせる *ここでは、「木密地域」という語句は出さずに学習を進める ○地理的事象に着目して考察させる				思：これまでの既習事項や前時の位野外調査から得られた情報を基に、これからの地域の将来像について、多面的・多角的に考察している

5	フィールドワーク (調査型) のための事前計画	フィールドワークのための調査計画を立てよう	○どこで、何を見るか、捉えるか、を計画する ○時間的な配分をもとに、ルート作成をする	○土地の高低差や道路の幅員、電信柱の本数、住宅の立地状況など、具体的に計画させる ○安全面に注意させる	●	地域の課題解決に向けた発信のための観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法など地理的な技能を身に付けている
6	裏付け調査のためのフィールドワーク (調査型)	仮説の裏付けとなるような地域的特色を調査しよう	○2～3人グループによる調査型のフィールドワークを行う ○前時の仮説を裏付けけるような地域的特色を調査して捉える	○住宅の建築素材(木造かどうか程度)は、イラストや文の差し込み、写真撮影などの工夫をさせ、後々の在り方の構想において活用できるようにしっかりと描写をさせておく ○校区管轄である野方消防署からの防災に関する諸資料や「東京都防災アプリ」なども活用させる	●	知:江古田や沼袋周辺の地域調査を通して、地域の課題解決に向けた発信に活用するための地域的特色を捉え、理解している
7	作図まとめ	地域調査で得た学習内容を、作図してまとめよう	○江古田や沼袋の地域的特色を捉えるために、地域調査の内容をもとに作図してまとめ	○江古田や沼袋の地域のように人口が多く、住宅地として広がってきた都市形成の背景は何かといった課題を、次の関東地方の学習に繋げさせる ○校区の一つである沼袋駅周辺(一部木密地域)のような住宅密集地域があることを必ず押さえさせておく *この時点では、「木密地域」という語句は使用しない	○	思:位置や分布、場所などの視点を基に、これまでの既習事項や野外調査を通してこれからの地域の将来像について、多面的・多角的に考察している 知:地域の課題解決に向けた発信に活用するための地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けている
8	発表	地域調査を通して捉えた江古田や沼袋の地域的特色を発表しよう	○作図した調査内容をもとに発表する	○江古田や沼袋の地域のように人口が多く、住宅地として広がってきた都市形成の背景は何かといった課題を、次の関東地方の学習に繋げさせる ○校区の一つである沼袋駅周辺(一部木密地域)のような住宅密集地域があることを必ず押さえさせておく *この時点では、「木密地域」という語句は使用しない	○	思:地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果をもとに、地域の将来像について多面的・多角的に考察し、表現している 知:江古田や沼袋の課題解決のためにどのような社会参画がなされているかについて理解するとともに、理解した地域的特色や地形等の諸資料を活用し論理的に発信している

○本単元における評価マトリクス

	予測力 社会的対象についての意味や意義を諸資料から適切に読み取り分析・予測し、判断する力	対応力 社会的対象についての課題を発見・把握し、選択・判断、処理・解決する力	共生力 異なる文化(国・地域)や世代間の違いなど多様な人々と交わり、受容し、共生する力	発信力 他者や社会に向けて発信者(個人・仲間・集団)が様々な手段・方法を用いて発信するための力	知識・技能	思考力・判断力・表現力 地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目し、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果をもとに、これからの地域の将来像について多面的・多角的に考察し、表現している	主体的に学習に取り組む態度 東北地方、地域調査、関東地方、地域の在り方ノート4つを1つの学習内容のまとまりとして「主体的に学習に取り組む態度」で評価する計画である。そのため、本単元では「評定に関わる評価」を行わない。実際の評価について、地域の在り方「評価マトリクス」で提示する

C 日本の様々な地域

(4) 地域の在り方

本単元の目標

- ア 地域の特続可能性などに着目し、課題を追及したり解決したりする活動を通して理解した地域の課題や解決策を、他者にも価値の委や行動を促すような適切なものとしてまとめられるよう力を身に付ける。
- イ 地域の特続可能性などに着目し、課題を追及したり解決したりする活動を通して、様々な人々の立場で異なる考え方を受容し、合意形成を図りながら、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- ウ 自分の住む地域への関わり方に着目し、東北、関東地方及び身近な地域それぞれの課題に対して、見直しをもって取り組み、学習の成果を活かしながら地域の担い手として改善を加えよりよい考えをつくり、周囲に発信しようとする。

■単元を貫く問い

「自分たちが住む地域である中野区沼袋が、誰にとっても住み続けられるよりよい地域となるためにはどうしていくべきか？」

◇この単元で「働かせる見方・考え方」

地域的特色を捉え、よりよい地域の在り方を考えるために、既習事項や主題図などの諸資料を活用し、「場所」「場所」「空間的相互依存作用」「地域」を働かせつつ、公民的分野を見通して「持続可能性」といった見方・考え方を働かせる。

時	学習項目	学習課題(目標)	学習内容と主な活動	指導上の留意点 (◎は重点事項)	4つの力				評価の観点 (学力の3要素)
					予測	対応	共生	発信	
	防災に関する課題発見(問いの設定)と影響の確認	木密地域を含む中野区全体、特に沼袋における防災に関する課題を読み取って、単元の問いを確認し、学習の見直しをもとに* “木密地域”とは、「木造住宅密集地域」の略である地震による影響をグループワークを通して確認しよう	○単元の問いを確認し、見直しをもつ ○東京都都市整備局HP「地震による地域危険度測定調査」の資料をもとに、新たな考察構想地域を捉える ○東北地方の学習や学校周辺(江古田)の地域調査の手法、関東地方の学習を踏まえた上で、もし首都直下型地震が発生した場合の影響を確認する ○これまでの既習事項を振り返る	◎考察、構想させる対象地域を資料から捉えさせ、東北地方や地域調査の手法、関東地方の学習からの地域の在り方といった学習のまとめを強く意識させる ◎関東地方で学習した地震による様々な影響をしっかりと確認させ、地域調査の手法で捉えていた住宅密集地域(沼袋の一部にある木密地域)という身近な地域の課題と直接関わっていることを確認させる ○これまでの振り返りから、課題としてまずは防災という点で問題提起をさせよう ○人口の集中による都市形成の動きと木密地域との関連を関東地方での学習を振り返らせつつ、確認させる ○地域調査の手法で得た体験的な知識を元に、自分ごととして考察、構想するための地域対象として、自分たちの町である中野区沼袋を設定する。東北地方、地域調査の手法、関東地方の学習を終えているからその深い学びとなるような、既習事項の関連を図る考察対象設定をする。また、その地域の捉え方、変容(人口の移り変わり)、結び付き(交通の発達による人の移動)などを相互に関連させ、公民的分野を見通して持続可能性に視点をあてて考察させる					主：中野区沼袋で見られる課題を主体的に追究し、地域の担い手としてその地域をよりよくするための提言・発信をしようとして、社会参画(行動)に結び付けようとしてしている

<p>木密地域を捉える学習</p> <p>2</p>	<p>木密地域の地域的特色を捉える</p>	<p>○関東地方の学習と関連させながら木密地域でできた歴史的な背景を捉える</p> <p>○地域調査の手法で作成した地図を活用し、寺院の数と木密地域の背景を捉える</p> <p>○品川区の木密地域における再開発の事例「東京都防災街区整備事業」や谷根千と呼ばれる地域一帯の木密との共生の事例「木密との共生」などを例に、木密地域を多面的・多角的に捉える</p> <p>○外国人などの観光客、町おこしとしての活用方法など、他の諸地域との比較学習を通して理解する</p> <p>○沼袋の商店街を例に、再開発が共存かをグループで話し合う</p> <p>○諸資料から木密地域における現状と課題を理解する</p>	<p>○5、6時で考察、構想させる際に必要な多面的・多角的な視点が多く含まれる重要な授業であるため、ポイントをしっかり抑えさせる</p> <p>○地域調査の手法で作成した地図を活用させる</p> <p>◎公民的分野のD2につなげる意味でも、古い町並みもつ経済的な側面の価値にも触れさせる</p> <p>○土地や建物の権利的な部分、補助金など金銭的な面も含めて、非常に解決しにくい構造であることにも触れさせる</p>	<p>●</p>	<p>思：中野区沼袋の地域的特色を踏まえ、地域による文化、価値観の違いを柔軟に受け止めるながら、対話や議論等を通してよりよい地域となるためにはどうしていくべきかを考察、構想している</p>
<p>3</p>	<p>地震の対応事例を調べる学習</p>	<p>既習事項である他地域から地震の対応策を学ぶ</p> <p>○近畿地方の学習を振り返り、タブレットを活用しながら、阪神淡路大震災から、木密地域の火災状況やその後の対応策を調べ、まとめる</p> <p>○関東地方の学習と関連を図りながら、関東大震災における対応策を調べ、まとめる</p> <p>○東北地方の学習を振り返りながら、東日本大震災における震災復興の対応策を振り返る</p>	<p>○5、6時の考察、構想させるにあたって、選択判断をせまえるのに重要な学習であるため、ポイントをしっかり抑えさせる</p> <p>◎東北地方で学習した東日本大震災(浪江町など)を例に、インフラが整うだけでは本場の復興ではないことをもう一度確認させる(東北地方の学習との関連)</p>	<p>●</p>	<p>知：中野区沼袋の在り方を考えるにあたって、他地域においてどのような社会参画の方法がとられているかについて理解するとともに、理解した地域的特色や地図等の諸資料を活用し、わかりやすく論理的に発信する技能を身に付けている</p>
<p>4</p>	<p>沼袋周辺の地域的特色を捉える学習</p>	<p>○地域調査の手法で作成した地図を活用して、地域的特色を捉える</p> <p>○作成した地図を元に、新たな沼袋駅周辺の地図を作成する</p> <p>○西武鉄道、新青梅街道、沼袋商店街、多く点在する寺院、そして木密地域など作図を通して、地域的特色を捉える</p>	<p>○地域調査の手法において、自分たちの手で作成した地図(資料)に、新たに捉えた地域的特色を加えさせる</p> <p>○中野区役所まちづくり課や防災課、野方消防署、東京都防災アプリなど行政からの提供データを活用させる</p> <p>○5、6時において、自分ごととして捉え、地域に住む一人として、中学生である自分たちに何ができののかを具体的に考えさせるために、地域的特色をより具体的にしっかりと捉えさせる</p> <p>◎5、6時の考察、構想のために、既習事項と関連させながら、自然、経済、社会といった三点の視点で沼袋の地域的特色を捉えさせる</p>	<p>●</p>	<p>知：中野区沼袋のよりよい地域に向けた課題解決における社会参画の取り組みやそれを促進するために適切に資料をまとめ活用したり、他者を巻き込むための様々な工夫をしたりといった知識や技能を身に付けている</p> <p>主：中野区沼袋の地域で見られる課題を主体的に追究し、他の諸地域の事例を参考にしながら地域の担い手としてその地域をよりよくするための提言・発信をしようとしていたり、社会参画(行動)に結び付けようとしていたりしている</p>

<p>個人の考察、構想とグループ討議</p>	<p>既習事項を活用し、グループで意見交換をして、よりよい沼袋の地域の在り方を考えよう</p>	<p>○既習事項やまとめた資料等を活用して、沼袋のよりよい地域の在り方を考察、構想する ○個人の考えをもとに、少人数グループで討議し、グループとしての意見をまとめる</p>	<p>○思考ツールである“在り方コンパス”を使い、これまでの既習事項を活用して、地域の在り方を視覚的に見えるように数値化し考察、構想させることにより、多面的・多角的な視点で、よりよい地域の考察、構想へとつなげさせる ○次時の個人における考察、構想をよりよいものにするために、グループ討議において多面的・多角的な視点で意見をまとめる ○自分ごととして社会参画を促すために、地域の組織への参加など、そこでの地域の人々の関わりが見えるものは、特に意識して捉えさせる ○個人→グループ→個人の3段階の活動だが、学びを深めるための時間を確保するため、ここではグループの討議までさせる</p>	<p>●</p>	<p>知：中野区沼袋の地域の在り方を考えるにあたって、他地域においてどのような社会参画の方法がとられているかについて理解するとともに、理解した地域的特色や地図等の諸資料を活用し、わかりやすく論理的に発信する技能を身に付けている 思：中野区沼袋の地域的特色を踏まえ、地域による文化、価値観の違いを柔軟に受け止めながら、対話や議論等を通してよりよい地域となるためにはどうしていくべきかを考察、構想している</p>
<p>グループ発表と個人の考察、構想</p>	<p>これまでの学習を経験員として、よりよい沼袋の地域の在り方を改めて考えよう</p>	<p>○これまでの学習を全て生かし、諸資料等を活用して、沼袋のよりよい地域の在り方を改めて考察、構想する</p>	<p>○前時に引き続き、“在り方コンパス”を使って考察、構想させる ○前時でまとめたグループの意見を発表する際、発表スタイル(話型やプレゼン方法、ICTの活用)など、有効且つ効果的なものなるように工夫させる ○黒板に“在り方コンパス”を掲示し、それぞれの意見を視覚的に捉えさせる ○個人→グループ→個人の3段階の活動だが、本時ではグループの意見発表と個人の考察、構想とさせる</p>	<p>○</p>	<p>思：中野区沼袋の地域的特色を踏まえ、地域による文化、価値観の違いを柔軟に受け止めながら、対話や議論等を通してよりよい地域となるためにはどうしていくべきかを考察、構想している 主：中野区沼袋の地域で見られる課題を主体的に追究し、他の諸地域の事例を参考にしながら地域の担い手としてその地域をよりよくするための提言・発信をしようとして、社会参画(行動)に結び付けようとしていたりしている</p>
<p>発表・まとめ</p>	<p>よりよい地域の在り方や防災との向き合い方を、実際に「沼袋駅周辺地区まちづくり検討会」と連携し、地域に発表、提言しよう 個人レポートとしてまとめよう</p>	<p>○クラス内で討議されたよりよい地域の在り方や防災との向き合い方を、既習事項を活用して「沼袋駅周辺地区まちづくり検討会」にオンライン等で発表、提言する ○ゲストティチャーと直接、またはオンライン会議を設定してやりとりをする *『中野区役所まちづくり推進プラン』(平成29年5月)における実際のプランを紹介し、生徒自身の考察、構想が表れているものであることを強調する</p>	<p>○日程調整が厳しければ、ICTを最大限活用し、録画等での事前提案も準備させる ○これまでの四つの力を活用し、中でも発信力を伸ばさせる ○『東京防災プラン2021』にもあるようなハード面の提案のみにならないように、中学生として防災との向き合い方を自分ごとにし、ゾフト面による提案もできるような発表、提言させる ○地域の諸課題における考察、構想を自分ごと捉えさせる ○社会参画は地域を変える力があり、その方法や仕組みについては公民的分野での学習となることを伝えるなど、公民との関連を強く意識させる</p>	<p>○</p>	<p>知：中野区沼袋の地域の在り方を考えるにあたって、他地域においてどのような社会参画の方法がとられているかについて理解するとともに、理解した地域的特色や地図等の諸資料を活用し、わかりやすく論理的に発信する技能を身に付けている 主：中野区沼袋の地域で見られる課題を主体的に追究し、他の諸地域の事例を参考にしながら地域の担い手としてその地域をよりよくするための提言・発信をしようとして、社会参画(行動)に結び付けようとしていたりしている</p>

○本単元における評価マトリクス

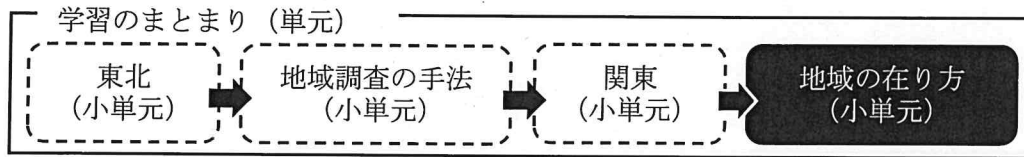
予測力 社会的事象についての意味や意義を諸資料から適切に読み取り分析・予測し、判断する力	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
対応力 社会的事象についての課題を発見・把握し、選択・判断、処理・解決する力			
共生力 異なる文化(国・地域)や世代間の違いなど多様な人々と交わり、受容し、共生する力		木密地域や沼袋などの地域的特色を踏まえ、地域による文化、価値観の違いを柔軟に受け止めながら、対話や議論等を通してよりよい地域となるためにはどうしていくべきかを考察、構想している	
発信力 他者や社会に向けて発信者(個人・仲間・集団)が様々な手段・方法を用いて発信するための力	よりよい地域に向けた課題解決における社会参画の取り組みやそれを促進するためにより適切に資料をまとめ活用したり、他者を巻き込むための様々な工夫をしたりといった知識や技能を身に付けている		中野区沼袋の地域で見られる課題を主体的に追究し、他の諸地域の事例を参考にしながら地域の担い手としてその地域をよりよくするための提言・発信をしようとしていたり、社会参画(行動)に結び付けようとしていたりする

提案授業Ⅱ 学習指導案

対 象 第2学年B組 36名
 第2学年C組 37名
 学校名 中野区立第七中学校
 授業者 主幹教諭 千葉 一品

1 単元

C 日本の様々な地域 (1) 地域調査の手法 (3) 日本の諸地域 (4) 地域の在り方



2 単元の目標

- (1) 地域の持続可能性などに着目し、課題を追究したり解決したりする活動を通して理解した地域の課題や解決策を、他者にも価値の変容や行動を促すような適切なものとしてまとめる力を身に付ける。
- (2) 地域の持続可能性などに着目し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、様々な人々の立場で異なる考え方を受容し、合意形成を図りながら、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- (3) 自分の住む地域への関わり方に着目し、東北、関東地方及び身近な地域それぞれの課題に対して、見通しをもって取り組み、学習の成果を活かしながら地域の担い手として改善を加え、よりよい考えをつくり、周囲に発信しようとする。

*上記の単元の目標にある(1)「知識・技能」、(2)「思考・判断・表現」は小単元の、(3)「主体的に学習に取り組む態度」は学習のまとめである単元の目標とする。

3 単元を貫く問い及び設定理由

貫く問い	「自分たちが住む地域である中野区沼袋が、誰にとっても住み続けられるよりよい地域となるためにはどうしていくべきか？」
設定理由	<p>自分たちが住む地域に愛着をもち、そこに生活する一員として社会参画の意識を向上させ、よりよい地域の担い手として行動できるような生徒の育成を目指す問いを作成した。問いの中の「誰にとっても住み続けられる～」とは、SDGsの原則「誰一人取り残されない」や、中野区が平成28(2016)年度～令和7(2025)年度で掲げている「新しい中野をつくる10か年計画(第3次)」にある「未来への扉をひらく8つの戦略Ⅲサステイナブルなかの」、平成29(2017)年9月に発表された東京都「都市づくりのグランドデザイン」、令和3(2021)年2月12日に東京都より発信された「東京防災プラン2021」に由来している。</p> <p>単元の追究テーマ設定において、生徒が住んでいる中野区の教育施策や東京都の施策との関連を図ることで、考察対象が自分たちの住む地域を含んだものとなり、自分ごととして捉えることが比較的容易になると考える。また、“誰にとっても”という問いを立てることで、自分だけではなく、様々な価値観を受容し合意形成を図るような多面的・多角的な考察、構想の場面を設定できると考える。</p>

4 この単元で「働かせる見方・考え方」

地域的特色を捉え、よりよい地域の在り方を考察、構想する学習において、主体的・対話的で深い学びとするために、既習事項や主題図などの諸資料を活用し、「場所」、「地域」といった地理的な見方・考え方を働かせつつ、公民的分野を見通して「持続可能性」といった見方・考え方を働かせることをねらいとする。これまで世界の諸地域の学習や日本の諸地域の学習において、「この地域はどのような地域か?」という問いのもと、「地域」という見方・考え方を働かせ、他の地理的な見方・考え方とともに鍛えてきた。地理的分野のまとめの学習とも言える、よりよい地域を構想する「地域の在り方」では、「よりよい地域とは?」と問うことで「持続可能性」といった見方・考え方を生徒が働かせることは必然とも言える。この小単元以前から、「地震への対応を例に、どこでも起こりうる災害と向き合いながら、地域の一員としてどのように社会に参画していくべきかを構想しよう。」という単元(学習のまとめ)を貫く問いを設定し、防災・減災という一貫した視点でよりよい地域の在り方を考察、構想させることとした。そうすることで、「江古田」や「沼袋」といった地域でも、これまで見てきた防災という視点で課題を捉えやすくなり、そこから地域の「持続可能性」という見方・考え方を働かせて考察、構想させることへと繋げやすくなると考えた。

また、他者と協働しながら考察、構想をさせる授業において、これまでの既習事項を生かし、関連させながら「持続可能性」という現在と未来の世代のニーズを満たす、誰にとってもよりよい社会について考えさせることをねらいとする。

5 単元の評価規準 *単元計画における評価マトリクス

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
予測力			
対応力			
共生力		地域の持続可能性などに着目し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、様々な人々の立場で異なる考え方を受容し、合意形成を図りながら、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	
発信力	地域の持続可能性などに着目し、課題を追究したり解決したりする活動を通して理解した地域の課題や解決策を、他者にも価値の変容や行動を促すような適切なものとしてまとめる力を身に付けている。		自分の住む地域への関わり方に着目し、東北、関東地方及び身近な地域それぞれの課題に対して、見通しをもって取り組み、学習の成果を活かしながら地域の担い手として改善を加え、よりよい考えをつくり、周囲に発信しようとしている。

6 指導観

(1) 単元観

本単元の「地域の在り方」は、学習指導要領（平成 29 年告示）社会編 地理的分野 C 日本の様々な地域で以下のように記載されている。

(4) 地域の在り方

空間的相互依存作用や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 地域の実態や課題解決のための取組を理解すること。

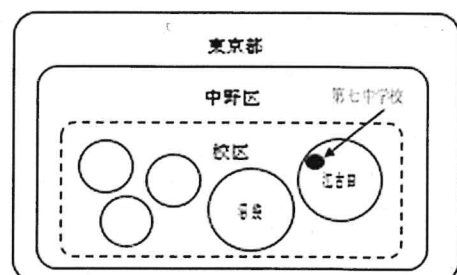
(イ) 地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について、多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。

「地域の在り方」では「地域の実態や課題解決のための取組を理解」し、「地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について、多面的・多角的に考察、構想し、表現すること」とされている。

本提案は、学習指導要領（内容の取扱い）エ（イ）にある通り、「内容のCの（1）の学習や、Cの（3）の中の学校所在地を含む地域の学習と結び付けて扱うことができる」ことから、東北地方＋地域調査の手法＋関東地方＋地域の在り方といった単元（学習のまとめり）を設け、生徒の生活圏における防災・減災を取り上げつつ、学習を深めることをねらいとする。地震への対応を例に、どこでも起こりうる災害と向き合いながら、地域の一員としてどのように社会参画をしていくべきか。この問いによって、まとめりある学習の展開をねらいとする。最初の「東北地方」では、人口、都市・村落を中核として東北地方の特色を捉えるが、震災の対応や事例を扱うことで、地域の在り方での考察、構想に向けた判断材料の学習を同時に行っている。次の「地域調査の手法」は、学習指導要領（内容の取扱い）「(5) ア (ア) 地域調査に当たっては、対象地域は学校周辺とし、主題は学校所在地の事情を踏まえて、防災、人口の偏在、産業の変容、交通の発達などの事象から適切に設定し、観察や調査を指導計画に位置づけて実施すること。」とあることから、対象地域を学校周辺の地域の一つである「江古田」とした。防災・減災という視点で地域調査の手法を学習し、そこで捉えた地域的特色の一つである課題（低地や新興住宅による住宅密集地域）を、次の「関東地方」の学習で、自分たちが住む地域よりも大きなスケールで捉えなおし、地域の都市形成がどのように行われてきたのかを人口、都市・村落の視点から捉える学習を進める。その後、あらためて防災・減災の視点で東京都を眺めてみると生徒が暮らす中野区沼袋は、東京都都市整備局が設定する「地震に関する地域危険度測定調査」で災害危険度の数値が高いことがわかる。それを受けてその地域のよりよい在り方を構想するという学習の流れを設定した。なお、「江古田」は本校の所在地でもあり学校周辺であるが、「沼袋」も校区内の一つの地域である（右図参照）。ただ、新興住宅が多く比較的整備されている「江古田」と、古い商店街や寺社、さらに新しい住宅と木造住宅が近接したり、木造住宅が密



集したりする地域（以下、木密地域）が混在する「沼袋」とは、地域の特色が大きく異なっている。

このように生徒が暮らす地域を考察、構想対象に含むように設定した理由は、生徒自身が社会参画の視点でより地域を考察、構想させやすいと考えたからである。「東北地方」、「地域調査の手法」、「関東地方」、「地域の在り方」をひとまとまりとすることで、防災・減災という一貫した視点による「地域調査の手法」での課題把握が、「地域の在り方」の構想の伏線となる。そして、課題を自分ごととして捉え、社会参画するための学習を進める際、生徒にとって考察、構想しやすいものとなる。それによって、自分たちが住む地域である「沼袋」を考察、構想するという「地域の在り方」の学習では、既習事項である交通・通信網といった「地域の結び付き」や、人口や産業の構造の変化がもたらす「地域の変容」、自然環境と人々の生活との関わりが影響し合う防災・減災も含めた「持続可能性」などの視点に着目して学習することで、より深い学びができると考える。

さらに、カリキュラム・マネジメントの一環として、理科、道徳科、総合的な学習の時間など、複数の教科等の連携を図りながら授業作りを行ってきた。例えば、東北地方の震災を始めとする自然災害のメカニズムについて理科の学習と連携を図ったり、道徳において「郷土愛」を取扱い、生徒自身らが生活する身近な地域の伝統文化的な側面を題材にして郷土への愛着を高めたりするような学習を行うなどの連携を図った。これらによって、このまとまりにおけるより一層の学習効果が図られると考える。

これまで、第1学年の世界の諸地域学習では全単元を通してSDGsの観点を意識し、現在顕在化している地球的課題を捉え、それらをどのように解決していくのかという視点で学習を展開してきた。そして、第2学年の日本の諸地域学習においては、七つの諸地域をいくつかの単元（学習のまとまり）に分け、そのまとまりにおける諸課題を自分ごととして捉えるような問いの設定をもとに、ESDを取り入れた課題解決型の学習を繰り返し行ってきた。その探究的な地理的分野の学習のまとめとして「地域の在り方」の学習を位置付けており、これは公民的分野への接続においても重要な小単元と考える。「地域調査の手法」を身近な地域で行い、自分たちが暮らす地域を含む「関東地方」を考察、そして自分たちが住む地域である「沼袋」の「地域の在り方」を構想させることで、地域の担い手である主権者として地域社会の形成に参画し、その発展に努力しようとする態度を育成できると考える。

(2) 生徒観

ア 本校の生徒の実態について

年度初めに授業に対する取り組み方を提示し、教員一同規律ある授業展開を継続して行っている。それによってどの学年・クラスにおいても授業への良い取組姿勢が見られ、“当たり前を当たり前積み重ねるといつか特別になる”ことを体現するのが本校生徒の特色である。しかし、個々の生徒に目を向けてみると物静かな面をもった生徒も多数おり、主体的に学習に取り組む様子が見えづらい傾向もある。そのため、生徒が単元（学習のまとまり）において、見通しがもて、毎時の振り返りができるような教材など、より一層の教材開発、教材研究が必要である。

令和2年9月11日に実施された区の学力調査をみると、“基礎”については目標値63.4ポイントに対して66.4ポイントと3ポイント高いが、“活用”は目標値50.8ポイントに対して45.1ポイントと大きく下回った。いかに自分の考えを表現し、他者の考えを聞く活動などが学習に影響しているのかを改めて実感している。協働的な学習として、対面型の学習形態以外に、付箋を活用して意見を交換したり、現在活用機会が増えているICTをより一層活用したりするなど、様々な状況下において自分自身の考えを表現し、既習事項を活用する機会を多く取り入れることが必要であると

感じている。

これらのことから、基礎的な知識の定着はもちろんのこと、思考力・判断力・表現力をさらに向上させるべく、資料等を適切に読み取ったり、関連付けたりして考察し表現するといったこれまで行ってきた学習を繰り返し展開していく必要がある。

イ 本校における身近な地域の学習前に行ったアンケート結果について

令和3年4月28日実施のアンケートで、「自分たちの住む中野区や江古田、沼袋について、“好きである”といった肯定的な内容で回答した生徒の数は、約88%だった。「課題はあるか」という質問には“ない”や“わからない”が約80%という内容だった。課題として挙げられた例は、「ポイ捨てが多い」、「これといったものがない」、「遊ぶ場所が少ない」などだった。これらを受けて、自分たちの住む地域に対して肯定感は高くもちつつも、適切に課題を捉えられていないことがわかった。これらのことから、本単元では、防災・減災の視点で地理的な特色を捉えつつ、自分たちの住む中野区江古田、沼袋といった地域の課題解決型学習を行うことで、自分たちが暮らす中野区やそこを含む地域の課題を適切に捉え、よりよい社会を創る生徒の育成が図られるのではないかと考えている。生徒自身が構想した具体的な地域の在り方の実現については、第3学年で学習する公民的分野（C（2）民主政治と政治参加、D（2）よりよい社会を目指して）に繋がりたい。地域が抱えている課題を捉え、それらを解決するためにどうするのか、“現在”だけではなく“未来”を見据えて主体的にどのように社会参画していくのか、それらを考察、構想する上で、地域に対する価値の再発見をしながら、最終的には国土に愛着をもった生徒を育成したい。

（3）教材観

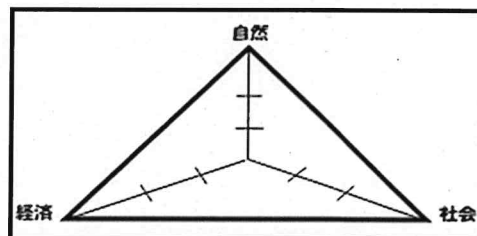
地域的特色を捉える際に中核となる事象とは別に、防災・減災という一貫した視点で“学習のまとまり”（単元）を計画する。「東北地方」の学習では人口、都市・村落を中核となる事象として地域的特色を捉え、震災を例にその影響や防災・減災への対応を学習する。「地域調査の手法」では、校区内の一部にある木密地域や住宅密集地域、低地である水害の災害リスクなどを含む地域的特色を捉え、続く「関東地方」の学習と関連させることで、身近な地域の形成要因や結び付きを考察してさらに深い学びとする。そして、浮かびあがってくるこれまでの都市開発によって発生した木密地域のような防災上に課題のある地域は、どのようにあるべきか。よりよい地域の在り方を追究するこの問いに対して、これまでの学習を相互に関連させながら「地域の在り方」を学習していく。

小単元「地域調査の手法」では、次のような身近な地域的特色を学習してきた。「江古田」は、北西方向から蛇行する江古田川と南西方向から蛇行する妙正寺川が合流する低地とその周囲の台地からなっている。川に近い地形を生かし、昔は川沿いには水田が広がり、周囲より高くなった台地には畑が作られ、都市向けの野菜などが盛んに生産されていた。低地と台地の間にある斜面は耕地として利用しにくいいため、人工林がつくられ、木材や肥料として利用された。明治42（1909）年までは少なくとも見られた田畑が、昭和20（1945）年には消滅し、戸建てが所狭ましと広がる住宅地になっている。このような特色は、都市周辺部で住宅地として利用されている地域では同様の土地利用、変遷の傾向が見られるのではないだろうか。この地域は、江古田の森公園や哲学堂といった自然環境も比較的豊かな地域である。交通の面では、徒歩15分圏内で、西武新宿線沼袋駅や大江戸線新江古田駅がある。西武新宿線は中野区を東西に走っており、関東バスと西武バスが南北に走っていて、15分ない間隔でバスが発着する。幹線道路では新青梅街道に面している。また、環状七号線や目白通りなどが近く、バスを利用すれば中野駅や池袋駅などにも10～30分程度でアクセスでき、比較的交通の便もよい地域となっている。これらの社会的要因も合わさり、住宅密集地域となって

いる。災害の視点でみると、「江古田」の地域は、江古田の森公園や環状七号線下の貯水池など対策はあるものの、2本の河川が合わさる低地というその地形的要因によって水害のリスクを抱えている。校区内の一部である西武新宿線沼袋駅のエリアは特に古い木造住宅も多くあり、木密地域と閑静な住宅街が近接していて、震災、火災などの被害を強く受けるおそれのある地域と言える。これらことから、この学校周辺の地域は、防災・減災の視点でみると、都市問題と水害という課題を合わせもっている地域と言える。

学校周辺で行う「地域調査の手法」では、二度のフィールドワーク（以下、「FW」という。）を計画している。1回目のFWは、教師がクラス全体を引率する巡検型で、様々な主題図や地形図などの読図や資料の作成といった調査の手法を習得する学習を経て、その現地調査としてのFWであり、地理的な知識・技能の習得のための学習である。2回目のFWは、学校周辺を4つのエリアに区分し、5～6人で構成される生活班とは異なる社会科授業用のグループ（3～4人）で調査エリアを分担し、グループ毎に1枚の地図を作成しまとめ発表する。2回目のFWは生徒らが主体となって1/2500地形図を使った調査型FWであり、住宅密集地域の課題など、生徒自身がたてた仮説の検証のため（地域の実態を捉えるため）のFWである。災害時などの緊急車両の通行に必要な道路の幅員（6m基準）の測定や住宅壁面の間隔幅（50cm目安）の測定をする活動、電信柱の数を数えるなどの活動を、2人組のペア（異なる社会科授業用グループでの組み合わせ）ワークによって行う。防災・減災といった視点でこれらの地域の実態を捉えよりよい地域の在り方を構想する際、どのような地域の在り方を目指すのか、価値判断が揺さぶられる大事な考察、構想のための材料を獲得するFWである。

価値判断を揺さぶる教材の一つに、「在り方コンパス」が挙げられる（右図参照）。これは、UNESCO「持続可能な未来のための学習」にある「開発コンパス」を参考にして作った思考ツールである。元々「開発コンパス」とは、文字通り開発を進めるにあたって、どのような方向性



であるべきかを指し示す指標であるが、その形状は三角形であり、中心からその頂点に向けて3目盛りずつある。3つの項目はそれぞれ、自然（環境、災害への対応）、経済、社会（つながり）の3つとし、すべてを満たすためには9目盛り分が必要となる。しかし、実際の社会ではすべてを満たすことは難しく、選択・判断していく必要があることから、ポイントを振り分ける学習活動で、生徒の価値判断、優先順位付けをさせる。よりよい地域を構想するにあたって、どれも大切な視点であることから、生徒の多くが異なる考えや価値観をぶつけ合い、思考が深まる仕組みと言える。

7 単元指導計画（全7時間）

- ・紙面の都合上、一部省略して掲載している。4つの力の評価について、「学習改善につなげる評価（●）」と「評定に用いる評価（○）」に分けて示している。詳細については別葉の「単元別指導計画・評価計画」を参照されたい。

時	学習項目や学習内容と主な活動	4つの力			
		予	対	共	発
1	○防災に関する課題発見（問いの設定）と影響の確認 ・小単元の問いを設定し、見通しをもつ。 ・東京都HP「地震による地域危険度測定調査」をもとに、新たに考察、構想する対象地域を捉える。 ・東北地方の学習や江古田の地域調査、関東地方の学習を踏まえた上で、もし首都直下型地震が発生した場合の影響を予測し、自分ごとに捉える。 ・東京都のHPにある『首都被災～木密地域に潜む災害リスク～』（1分）を視聴する。				●
2	○木密地域を捉える学習 ・関東地方の学習と関連させながら木密地域ができた背景を捉える。 ・中野区新井薬師や浅草などを例に木密地域の街並みや景観、町のにぎわいなど、プラスの側面や人々の思い、愛着等を理解する。 ・木密地域は解消すべき課題であるが、早急な解決が現実的には難しい地域であることを理解する。			●	
3	○地震の対応事例を調べる学習 ・既習事項を振り返り、諸資料やタブレットを活用しながら、近畿地方の学習から阪神淡路大震災を例に、木密地域の火災状況やその後の対応策を、東北地方の学習から、東日本大震災を例に、震災復興の事例を調べ、それぞれまとめる。				●
4	○沼袋周辺の地域的特色を捉える学習 ・西武鉄道、新青梅街道、沼袋商店街、多く点在する寺院、そして木密地域など、「地域調査の手法」で作図した地図を活用しながら作図を通して、沼袋の地域的特色を捉える。				●
5 (前時)	○個人による考察、構想とグループ討議（個人→グループ） ・まとめた図、資料等を活用して、よりよい沼袋の地域の在り方を考察、構想する。 ・個人で考察、構想したものをもとに、グループ討議し意見をまとめる。			●	●
6 (本時)	○発表と個人による再考察（グループ→個人） ・各グループの意見を発表し、クラス全体で共有する。 ・中野区の基本構想にある「つながる はじまる なかの」に関連させたパフォーマンス課題を設定し、個人の考察、構想を発信する。			○	●
7	○発表・まとめ ・クラス内で討議されたよりよい地域の在り方や防災との向き合い方を、これまでの既習事項を活用して地域に提言、発信する。 ・ゲストティーチャーとして「沼袋駅周辺地区まちづくり検討会」の担当者に来校頂き、意見交換会の場を設定する。 *『中野区区役所まちづくり推進プラン』（平成29年5月）における実際のプランを紹介し、生徒自身の考察、構想が実りあるものであることを強調する。				○

8 身に付けさせたい「4つの力」との関係

これまでの地理的分野の学習において、地理的事象を諸資料などから適切に読み取り将来像を予測する「予測力」を鍛え、課題解決型学習を通して課題を発見、把握し解決に向かう「対応力」を主に育成してきた。「地域の在り方」を含む単元（学習のまとめ）を例に言えば、「東北地方」の地域的特色を捉える学習とともに、震災を事例にして「対応力」を磨き、「地域調査の手法」では身近な地域的特色を捉えるとともに、震災の影響や復興の在り方を考察することで「予測力」を高めてきた。さらに、「関東地方」の学習において地域的特色を捉えながら、首都直下型地震を想定した学習で「対応力」を磨き、よりよい地域の在り方を考察、構想する計画となっている。この小単元である「地域の在り方」では、特に「共生力」、「発信力」について、身に付けさせたいと考える。

公民的分野の学習に繋げるためにも、「予測力」、「対応力」をベースに地域的な課題の解決に向けて、様々な価値観を受容し合意形成を図っていく「共生力」や、他者を巻き込み、ともに社会参画していく「発信力」の育成がより重要となると考える。地域の特色を理解し、課題を捉えて将来像を予測し、その解決に向けて合意形成を図り、社会参画を図っていくことが、よりよい社会を創る生徒の育成に欠かせないと考えている。そのため、この小単元の「地域の在り方」を考察、構想させる際には、「共生力」、「発信力」を高めるために、「東北地方」の学習でも活用した「在り方コンパス」によって異なる価値観をぶつけあい、合意形成を図るグループ活動を通して「共生力」を磨き、自分の意見を伝え合うことで周囲を巻き込み、ともに社会参画するような「発信力」を育成していきたい。地理的な見方・考え方を働かせ、地域の持続可能性をふまえて、合意形成を図るために多面的・多角的に課題及び解決策を考察、構想し、表現することで「共生力」における「思考・判断・表現」を身に付けさせたいと考える。

9 前時・本時（全7時間中の第5時・第6時）

（1）前時・本時（第5時・第6時）の目標

地域の「持続可能性」などに着目して、中野区沼袋という地域の地域的特色を適切に捉え、価値観の違いを柔軟に受け止め合意形成を図りながら、よりよい地域の在り方を多面的・多角的に考察、構想する。

* 2時間続きで、同様の目標に向けた学習のため、前時・本時として記載する。

* 前時（第5時）は学習改善につなげる評価（●評価）のため、評価規準の記載はない。

（評価についての詳細は、単元指導計画を参照のこと）

（2）前時・本時の問いの設定理由について

前時・本時の問いである「10年後の、誰にとってもキラリ輝く沼袋とはどのような町なのだろうか」について、次のような理由で設定した。

令和3年3月23日に改定された「中野区基本構想」には、「全国各地で甚大な影響を及ぼす大規模な自然災害の発生、2020年に感染拡大した新型コロナウイルス感染症の影響による人々の生活の変化、さらには中長期的な人口構造の変化など区を取り巻く環境は常に変わり続けている。」とあり、「このような社会状況等を踏まえ、10年後に目指すまちの姿を、4つのまちの姿（基本目標）ごとに描いている。」として、4つの戦略を掲げている。これは、前述した単元を貫く問い及び設定理由にもあるが、中野区が平成28（2016）年度～令和7（2025）年度で掲げている「新しい中野をつくる10か年計画（第3次）」にある「未来への扉をひらく8つの戦略Ⅲサステイナブルなかの」を受けてのものである。

その戦略の一つに、まちの活性化戦略Ⅰのキーワードとして“キラリ輝くなかの”が使われている。また、SDGsの原則である“誰一人取り残さない”から、“誰にとっても”というフレーズを使うことで、様々な立場に立って合意形成を図りながら学習活動を進めることをねらいとする。

これらを受けて、単元を貫く問いである「自分たちが住む地域である中野区沼袋が、誰にとっても住み続けられるよりよい地域となるためにはどうしていくべきか？」を、考えやすく平易にしたものが、前時・本時の問いである。このように、生徒が社会で活躍する10年後の自分たちが住む地域のよりよい在り方を主体的に考察、構想させるために上記のような問いを設定した。生徒自身が暮らす中野区の施策と具体的に関連させることで、より主体的に学習を進め、当事者意識をもって課題解決を図りながら、他者と協働して社会参画する生徒の育成ができると考える。

(3) 前時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業の流れを確認する。 ・前時までの振り返りを行い、災害という誰にとっても起こりうる身近な問題を例に防災・減災の視点で、東北地方、地域調査の手法、関東地方、そして地域の在り方と学習を進めてきたことを確認する。 ・調査型FWを通して獲得した体験的な知識、これまでの諸地域学習で得てきた知識なども含め、前時までの重要なポイントを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標をプレゼンテーションソフトで映すとともに黒板に掲示し授業中、常に確認させる。 ・同様に授業の流れも映し、1時間の見通しをもたせる。 ・これまでのワークシートの内容など、既習事項のいくつかをプレゼンテーションソフトを用いて提示し、確認させる。 ・前時までの学習内容等の確認は多面的・多角的な思考、構想にとって重要であることを意識させる。 	
<p>10年後の、誰にとっても“キラリ輝く沼袋”とはどのような町なのだろうか。</p>			
展開 ① 17分	<p>◎個人作業：「価値判断」 「在り方コンパス」の説明、確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料や事実などこれまで獲得した知識を根拠としてあげ、地域の在り方を多面的・多角的に考察し、構想する。 (「在り方コンパス」について、3つの領域のどこに力点をおくことがよりよい地域の在り方につながるのか、根拠に基づいてその選択と判断理由を考察する。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「在り方コンパス」(前述の教材観を参照)について、東北地方の考察を振り返らせながら確認させる。 ・“誰にとっても”に着目し、既習事項を振り返り、様々な視点を想起させ、多角的に考察させる。 ・目標に沿った表現となるように根拠(資料等)を明確にし、優先順位をつけた判断理由を、他者に対して明確に説明できるように取り組ませる。 ・これまでの既習事項を活用し、資料等必ず根拠を付け加えることを徹底させる。 	
展開 ② 23分	<p>◎グループによる討議：「価値の揺さぶり1」</p> <p>協働的な学習を通して、よりよい地域とはどのような地域か、「在り方コンパス」を使ってグループの意見をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5～6人で構成される生活班とは異なる3～4人の少人数グループを基本とした対話的な学習に取り組ませる。(新型コロナウイルスのまん延防止の観点から、状況に応じてOn-line、付箋 	

	(他者の異なる考えや価値観に触れ、自分の考えをさらに深める。また、自分の考えを他者に説明することで、改めて自分の考えを論理的に整理し直し、他者を巻き込むような発表内容となるように工夫する。)	の使用など工夫する) <ul style="list-style-type: none"> ・他者の思考に触れることによって価値観の変容が起こることや最適解をめざすことを意識させる。 ・司会を立て、発表者も同時に決めさせる。 ・他の人の意見を聞いて、新たに分かったことや参考になったことを積極的にメモさせる。 	
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・次の学習に向けての説明をする。 ・振り返りシートを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次回、グループでまとめた意見の発表であること、個人の再考察であることを確認させる。 	

(4) 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 3分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業の流れを確認する。 ・前時までの振り返りを行い、改めて災害という誰にとっても起こりうる身近な問題を例に防災・減災の視点で、東北地方、地域調査の手法、関東地方、そして地域の在り方と学習を進めてきたことを簡単に確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時と同様、本時の目標をプレゼンテーションソフトと黒板に掲示し授業中、常に確認させる。 ・上記同様に授業の流れを映し、1時間の見通しをもたせる。 ・前時の確認を短時間で行い、短時間で展開部の学習活動に移らせる。 	
10年後の、誰にとっても“キラリ輝く沼袋”とはどのような町なのだろうか。			
展開 ① 12分	<p>グループによる発表：「価値の揺さぶり2」</p> <p>グループ毎でまとめたよりよい地域の在り方を、クラス全体に「在り方コンパス」を活用して優先順位をもとに説明する。(グループ毎の発表を聞くことで他者の考えに触れ、自分の考えを深める。また、発表者は、あらためて他者に自分の意見を説明することで、自分の考えを論理的にまとめ、他者を巻き込むような発表となるように工夫する。)</p>	<p>グループ討議「価値の揺さぶり1」は前時で行っているため、ここではグループ発表「価値の揺さぶり2」から開始させる。(各グループ1分程度×10グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の人の意見を聞いて、自分と異なる意見や価値観など、新たに気づいたことや様々な考え方を積極的に記録させる。 ・他者を巻き込むような発表内容や方法などは、積極的に取り入れるようにさせる。 	

<p>展開 ② 20分</p>	<p>◎個人作業：「価値の再認識」 先ほどのグループ発表を含むこれまで学習したすべての内容をもとに、改めて本時の主発問に対して自分ごととして考察、構想する。</p>	<p>・他者の思考に触れることによって価値観の変容が起こることや最適解をめざすことを意識させる。 ・評価規準に則った評価ポイントをしっかりと確認させ、取り組ませる。</p>	<p>思・判・表 「地域」や「持続可能性」などに着目して、中野区沼袋という地域の地域的特色を適切に捉え、価値観の違いを柔軟に受け止め合意形成を図りながら、よりよい地域の在り方を多面的・多角的に考察、構想している。(ワークシート)</p>
<p>まとめ 15分</p>	<p>・一部、生徒回答例をクラス全体で共有する。 ・これまでの学習のまとめとして、様々な考え、意見を振り返る。 ・振り返りシートを記入する。</p>	<p>・よりよい地域をつくっていくにあたって、それぞれ異なる考えや価値観があり、それらを互いに受容しながら、これからも社会に関わっていくべきであることを確認させる。 ・これまでの“学習のまとめ”を振り返り、個々の学習を関連付けさせる。</p>	

(5) 前時・本時の板書(電子黒板使用)計画

ア 板書計画

<p>本日の目標：10年後の、誰にとっても“キラリ輝く沼袋”とはどのような町なのかを考えよう！</p>				<p>社会科グループごとの意見</p>			<p>掛け地図 【「地域の在り方」で改めて作成した沼袋の地図】</p>	<p>掛け地図 【「地域調査の手法」で作成した学校周辺の地図】</p>	<p>掛け地図 【関東地方】</p>
1グループ	4グループ	7グループ	9グループ						
2グループ	5グループ	8グループ	10グループ						
3グループ	6グループ								

イ 電子黒板使用の計画・教室掲示等

<p>電子黒板 プレゼンテーションソフトを用いてスライドの提示</p>	<p>教卓</p>	<p>掛け地図 【「地域の在り方」で改めて作成した沼袋の地図】</p>	<p>掛け地図 【「地域調査の手法」で作成した学校周辺の地図】</p>	<p>掛け地図 【関東地方】</p>
---	------------------	---	---	------------------------

(6) タブレットパソコン活用計画

- ・第3時 他地域の震災における対応事例調べにて、資料収集の目的で使用する。
- ・第5、6時 「地域調査の手法」におけるFWで撮影した画像を、資料活用の目的で使用する。

(7) 前時・本時で活用するワークシート

第4章 地域の在り方

5 よりよい地域の在り方を考える 組 番 氏名

本単元の趣旨: 沿線が賑わって生活が続けられるよりよい地域となるために何ができるかを考える。

目標: 10年後の、誰にとっても「キラリ輝く沿線」とはどのような町なのかを考えよう！

10月某日、「よりよい沿線の在り方」を課題とする中野区主催意見交換会の会場にいます。ここには、区長を始め、中野区議会議員がおり、そして地域の人々が参加しており、あなたは地域に暮らしながら中学生代表として参加しています。

司会: 令和3年5月に決定された「中野区基本構想」において、10年後に目指すまちの姿が発表されています。そこには、「つながら けじめある まち」とあり、中野から日本全国に地域の在り方を発信させようとする思いが見て取れます。

それを受けて、今回は、「沿線」のよりよい在り方を考えていきたいと思います。地域発展の研究にお詳しい3名の専門家にもお話し頂いてあります。イクソー教授、マテヨ教授、ツナガロ教授です。(拍手バキバキバキ)

では、さっそく各教授に地域の在り方について、ご意見を伺いたいと思います。「10年後の誰にとってもキラリ輝く沿線、防災・減災も含めた沿線のよりよい在り方について、皆さんはどのようにお考えですか。」

イクソー教授:「皆さんもご存じの通り、この沿線商店街をもっと活気あるものにする必要がありそうです。まずは、街を活性化させましょう。」

マテヨ教授:「いやいや、それは違う。昨今の自然災害をご存じないのですか。自然環境にどう向き合っていくのか、これをもう一度考え直す必要はありませんか。」

ツナガロ教授:「お二人の意見もわかります。ですが、災害時において、一番は人のつながりです。減災の意味も踏まえて、まずは地域のつながりから考えませんか。」

司会:「なるほど、難しい問題ですね。中学生であるあなたのご意見を率直に聞かせてください。」

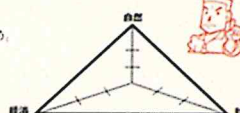
専門家3名の意見が真っ向対立です。そこで、中学生代表であるあなたに、専門家から国書が求められました。何と答えますか。

★注意★ ①: 「在り方コンパス」を思い、自分と地域とが接点や接点の位置、関係性を考えよう。②: 「在り方コンパス」は、東北地方の震災で活用したものの例として、本単元の学習内容を踏まえて、描き直して描き直して示し、それが図解すること。

1 思考ツールの確認

これからの活動にあたって、思考ツールの確認をしましょう。

「在り方コンパス」と呼ばれるもので、中心からそれぞれ「自然」、「経済」、「社会」の3つの領域が示されている。



よりよい地域を考える際に、どんな視点で考えるよいか、それを指し示したものである。1人5ポイント持って、自由にポイントを選び分けられる。なぜ、その領域を高いポイントとしたのか、描き直して説明しよう。

2 個人の活動

(1) 本時の目標に対して、個人で取り組んでみよう。5ポイントを割り分け、そのように考えた理由を「自然・経済・社会」の領域ごとに説明しよう。



3 グループによる活動

大勢の意見を聞いて、自分と地域とが接点や接点の位置、関係性を考えよう。

(2) グループの最終意見をまとめよう。

★次回の発表に向けての原稿作成★

感想欄: 地域の一員として暮らしながら中学生の自分は、よりよい地域のために何ができるだろうか。

©Chie daizawa

理由(1)グループが決められたので、意見交換がスムーズにできた。

(1) 本時の目標に対して、3~4人のグループ活動をしてみよう。自分と意見交換しよう。「在り方コンパス」にポイントを割り分けよう。個人同様、なぜその領域を高いポイントとしたのか、理由を説明しよう。



(2) グループの最終意見をまとめよう。



第4章 地域の在り方

6 よりよい地域の在り方を考える 組 番 氏名

本単元の趣旨: 沿線が賑わって生活が続けられるよりよい地域となるために何ができるかを考える。

目標: 10年後の、誰にとっても「キラリ輝く沿線」とはどのような町なのかを考えよう！

10月某日、「よりよい沿線の在り方」を課題とする中野区主催意見交換会の会場にいます。ここには、区長を始め、中野区議会議員がおり、そして地域の人々が参加しており、あなたは地域に暮らしながら中学生代表として参加しています。

司会: 令和3年5月に決定された「中野区基本構想」において、10年後に目指すまちの姿が発表されています。そこには、「つながら けじめある まち」とあり、中野から日本全国に地域の在り方を発信させようとする思いが見て取れます。

それを受けて、今回は、「沿線」のよりよい在り方を考えていきたいと思います。地域発展の研究にお詳しい3名の専門家にもお話し頂いてあります。イクソー教授、マテヨ教授、ツナガロ教授です。(拍手バキバキバキ)

では、さっそく各教授に地域の在り方について、ご意見を伺いたいと思います。「10年後の誰にとってもキラリ輝く沿線、防災・減災も含めた沿線のよりよい在り方について、皆さんはどのようにお考えですか。」

イクソー教授:「皆さんもご存じの通り、この沿線商店街をもっと活気あるものにする必要がありそうです。まずは、街を活性化させましょう。」

マテヨ教授:「いやいや、それは違う。昨今の自然災害をご存じないのですか。自然環境にどう向き合っていくのか、これをもう一度考え直す必要はありませんか。」

ツナガロ教授:「お二人の意見もわかります。ですが、災害時において、一番は人のつながりです。減災の意味も踏まえて、まずは地域のつながりから考えませんか。」

司会:「なるほど、難しい問題ですね。中学生であるあなたのご意見を率直に聞かせてください。」

専門家3名の意見が真っ向対立です。そこで、中学生代表であるあなたに、専門家から国書が求められました。何と答えますか。

1 前時グループ討議内容の発表原稿 と メモ欄

©Chie daizawa

★大勢の意見を聞いて、自分と地域とが接点や接点の位置、関係性を考えよう。

2 個人の考察、構想(再度)

意見交換会も終盤に差し掛かってきました。

司会: これまで、10年後の誰にとってもキラリ輝く沿線について、たくさんの議論を重ねてきました。こうしている今にも、首都直下型地震が起こっても不思議ではありません。改めて、これまでの討議を聞いて、「防災・減災も含めた沿線のよりよい在り方」とは、どのような在り方でしょうか。今一度、中学生代表の方に聞いてみましょう。では、お願いします。

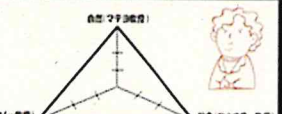
★注意★ ①: 誰にとっても暮らしやすい沿線を実現するために、自然・経済・社会の3つの領域にそれぞれ何を考えるのか、自分と地域とが接点や接点の位置、関係性を考えよう。②: 防災・減災を含めた沿線のよりよい在り方について、描き直して示し、それが図解すること。

(2) グループの最終意見をまとめよう。

本時のポイント (全体の復習と確認)

(1) 沿線の地域的特色を捉え、資料など既習事項を活用し、よりよい在り方を適切に表現している。(2) 様々な立場を考慮しよりよい地域となるよう、いろいろな面から具体的に表現している。

理由:



感想欄: 地域の一員として暮らしながら中学生の自分は、よりよい地域のために何ができるだろうか。

1 課題の設定 (どの地域を考える?)

単元を貫く問い：地震への対応を例に、どこでも起こりうる災害と向き合いながら、地域の一人としてどのように社会に参画して参画していくべきだろう。

小単元の問い：〇〇が誰にとっても住み続けられるよりよい地域となるためにはどうしていくべきか。

目標：10年後の、誰にとっても“キラリ輝く〇〇”とはどのような町なのかを考えよう！

★関東地方の学習を受けて、東京の特色における「首都直下型地震」の影響とは何だろうか？グループによる学習活動で、東京の特色を再度振り返ろう。

1 新たな防災の視点でみる東京

(1) 下図①は、東京における“ある災害”に関する危険度測定調査のマップである。

1

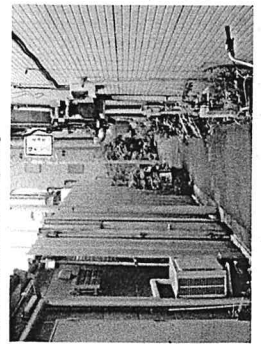
何が危険なんだろうか？

火災危険度測定調査マップ

『東京都都市整備局』のHPより

(2) 右図②は、

地域の分布図である。



2

木密地域の分布図

『東京都都市整備局』のHPより

2 中野区の危険度を確認

(1) 右図③は、左頁の1(2)に対する『整備地域位置図』である。中野区を赤で着色しよう。

中野区の主要幹線道路、鉄道などのマップ

木密地域に対する都内の整備地域位置図

(2) 中野区の中でも、どのあたりが危険度の高い地域となっているだろうか。

東京都都市整備局のHPで確認してみよう！例：身近な地域としては、_____ において _____ の危険度が高いといえる。

3 首都直下型地震の影響をより具体的に予測しよう

2021年9月22日(水) 11時58分32秒。東京湾北部を震源とするM7.3の首都直下型地震が発生。都心部を中心に震度7クラスの強い揺れを観測..... (1) この地震におけるリアルな生活への影響、社会の状況をグループで予測しよう。

(2) 地震発生時、みんなは？家族はそれ何をしている？家族の状況を具体的に書こう。

感想欄：防災・減災について、中学生の今の自分に何ができだろうか。

2 木密地域とは？

組 番 氏名

小単元の問い：沼袋が誰にとっても住み続けられるよりよい地域となるためにはどうしていくべきか。

目標：木密地域における地域的特色を多面的・多角的に捉えよう。

★前回、確認した新たな考察対象地域、その“木密”に関する一本の動画を見て欲しい。(約3分)
これは、東京都知事小池百合子氏からの『首都被害CG』というビデオメッセージである。
誰にとっても住み続けられる地域のために、木密地域をどうすべきか自由に書いて欲しい。

1 あらためて、“木密”とは？

- (1) 正式名称は¹_____地域で、これを通称“木密地域”と呼ぶ。
 - (2) どのように分布していると言えるか。前時のワークシート¹を参考に書きなさい。
- 山手線外周部を中心に、²_____状に広がっている。**

【参考：木密地域の定義】

東京都では、「木造住宅密集地域整備プログラム（平成9年）」で指定された木造住宅密集地域のうち、土地利用現況調査（平成18・19年）により算出した不燃領域率※60%未満の地域（約16,000ha）としています。

※不燃領域率：市街地の“燃えにくさ”を表す指標で、建築物の不燃化や道路、公園などの空地の状況から算出します。70%を超えると市街地の延焼による焼失率はほぼゼロとなります。

2 木密はなぜ、どのようにできたのか？

- (1) 中野区を例に、人口の増加時期を読み取ろう。

右図⁵（地域調査の手法¹3(2)を参照）を参考に、人口が増加し始めている時期はいつ頃か。

時期：³_____
なぜか？：昭和20年とは？⁴_____

- (2) 木密地域の分布を示す左図⁶（前時ワークシート¹の資料²）と、図⁷『東京大空襲による被災地域』（関東ワークシート³のM）を見て気づくことを書こう。

5

⇒ つまり、_____

6：木密

5

中野区の
人口の推移

7：大空襲

東京大空襲による
被災地域

木密地域の
分布図

3 木密の防災における負の側面

- (1) タブレットを活用し、HP『木密（もくみつ）』を検索して、次の語句を書きなさい。
①：()：地震の揺れによって、建物が壊れたり傾いたりする危険性の度合いを測定するもの。
- ②：()：地震時に地震の揺れによって発生した火災の延焼により、広域で被害を受ける危険性の度合いを測定するもの。出火の危険性と延焼の危険性を掛け合わせることで測定する。
- ③：()：地震により建物倒壊や火災発生が起こった場合、危険地域からの避難や消火・救助活動のしにくさを測定するもの。幅員6m以上の道路まで到達するのにかかる平均的な時間と、幅員4m以上の道路から容易にアクセスできない範囲が町丁目面積に占める割合を掛け合わせた値に基づき測定する。

4 他地域による木密地域の取組

- (1) 木密地域に関する、次のそれぞれの動画を観てみよう。
①品川区の事例：東京都の当時四例目となる、「防災街区整備事業」における再開発の事例(約3分)
出典：『TOKYO MX NEWS（2016年5月18日）』
- ②文京、台東区の一部である「谷根千」と呼ばれる谷中、根津、千駄木一帯の事例：木密との共生(約7分)
出典：『日本経済新聞（2017年8月24日）』
- (2) 身近な地域である“沼袋”を例に、木密地域の在り方を考えよう。

動画を観た後、沼袋を対象に“再開発”か“共生”が討論。沼袋の経済的なにぎわいは？

私は、沼袋のよりよい町づくりとして、再開発 or 木密との共存 を支持します。なぜなら_____

- (3) (2) で考えた個人の意見をもとに、グループで討議し意見をまとめてみよう。

私たちのグループは、沼袋のよりよい町づくりとして、再開発 or 木密との共存 を支持します。なぜなら_____

【参考：木密地域の現状と課題】

木密地域は、東京都はもちろん、どの地域においてもその防災における負の側面から早急に解決すべき課題として挙げられている。では、なぜ現存しているのか……。

- ・土地の所有者、土地の管理者、住居者と立場が複雑。・経済的負担の大きさ
 - ・次世代に借金を残すことの強い抵抗感 ・住居者の高齢化（リスク＜現在）・ある程度の地域的なまとまりがなければ改善されない現実 など
- 『木造住宅密集地域の再開発が進まない基本的要因とその解決策について』（日本大学経済学部教授 山崎 福寿）より

感想欄：防災・減災について、中学生の今の自分に何ができそうか。

3 災害における他地域の事例調べ

組 番 氏名

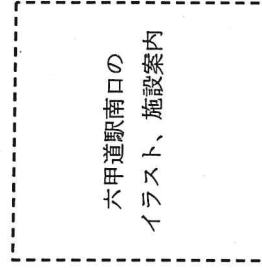
②下の資料10は、震災直後（1995年）と震災後（2005年）の六甲道駅南口の様子である。これらを見て、気づくことを簡単に書きなさい。

小単元の問い：沿袋が誰にとっても住み続けられるよりよい地域となるためにはどうしていくべきか。

目標：よりよい町づくりにおいて、地震による対応策を他地域の事例を通して理解しよう。

★1 次の写真は、日本に大きな被害を与えた地震の一つである。1995年に兵庫県で発生したこの地震を何というか、書きなさい。

★2 この地震に関する動画を見よう。（約4分）



1 阪神淡路大震災から学ぶ

- (1) 発生日時 平成 7 () 年 1 月 17 日 5 時 47 分
- (2) 規模 M7.3 最大震度 7
- (3) 被害状況：内閣府『防災情報のページ』より引用。

阪神・淡路大震災による被害は、死者・行方不明者のほか、住宅や事業所等の建築物や高速道路、鉄道、港湾、ライフライン等、多岐にわたっており、総被害額は約10兆円に上っている。この地震の主な被害状況（人的被害・住宅被害）は別途HPのとおりである。とくに神戸市内の長田区など老朽木造住宅密集市街地での建物の倒壊と火災の被害が激しく、また、避難生活者も約31.7万人に上った。

(4) 内閣府『防災情報のページ（より良い復興事例リスト）』から、復興対策事例を読み取ろう。

①下の資料8、9を見て、震災後、町がどのように変化したか、気づくことを書きなさい。

8

建物・・・道幅・・・としても・・・？

震災直後のまちなみ
(備後町5丁目)

9

事業完成後のまちなみ
(3番街)

震災直後である1995年1月には何かが、震災後である2005年5月に新たに作られたものは何？

()

11



③災害時、公園はどのように利用されか、資料11を参考にし書きなさい。

2 関東大震災から学ぶ

- (1) 日時 大正12 () 年 9月 1日 11時 58分
 (2) 規模 M7.9 最大震度 6
 (3) 被害状況 : 内閣府『防災情報のページ』より引用。

近代化した首都圏を襲った唯一の巨大地震であり、南関東から東海地域に及ぶ地域に広範な被害が発生した。死者105,385、全壊全焼流出家屋293,387に上り、電気、水道、道路、鉄道等のライフラインにも甚大な被害が発生した。関東大震災は近代未曾有の大災害であったが、被害を食い止めた例の検討を通じて、数多くの教訓を得ることができ、後の災害対策の礎になったと評価できる。また、建物の耐震化などの災害に強いまちづくり、災害時に町内で助け合っ被害を軽減するような共助の取り組みなどに平時から取り組んでおくことが重要である。

- (4) 動画『TOKYO MEGA QUAKE 1923 関東大震災の記録』をみて、簡単に感想を書こう。

- (5) 江戸、東京の歴史から見る

東京の骨格となった江戸の町は、広大な御城の他、市域の7割を占める武家地、1.5割の寺社領、残りは町人地・農地であった。主に御城の西方を固める大名屋敷や寺社領が数千坪規模であったのに比べ、東方の浅草・神田・日本橋地域には粗雑な町長屋(右資料)が通称である八百八町にひしめいていた。次第に、人口が増加し、家康が進めた平安京の条里制にならなった街づくりは崩れていった。

江戸の町屋模型
東京消防博物館

震災が起こった時の街の様子は、左の写真のような状態であった。これまでの大火で道路が拡張されてはいたが、一歩わき道に入ると昔ながらの木造が密集しており、上の江戸の町屋模型で示したように、大火発生の頻度は江戸以来の町地の家屋密度に呼応していた。その後現在に至るまで、震災で区画整理された隅田川沿いの地域以外の地区では住宅が建て込んだ状況が続いている。

上野から神田方面の遠望 (大正中期)

(6) 内閣府『防災情報のページ(報告書(1923 関東大震災) 災害教訓の継承に関する専門調査会報告書 平成18年7月1923 関東大震災)』から、復興対策事例を読み取ろう。

- ① 下の資料12は関東大震災での被災延焼エリアである。現在の地図と見比べて気づくことを書きなさい。地図帳のP112と見比べて、下のOで囲んだエリアをみて、なぜ燃えていないのか考えろ。

地図帳 P112

O

関東大震災での被災延焼エリア

13

自然的焼け止まりの説明

(6) 改めて、火災から街を守るためにはどのような街づくりが必要と考えるか。左の資料13を参考に、簡単に書きなさい。

焼け止まり線
状況の資料

4 沼袋の地域的特色

組 番 氏名

その際、寺社が多く分布している沼袋の地域的特色を生かし、寺社（禅定院、実相院、眞源寺、百観音明治寺、沼袋氷川神社など）や歴史民俗資料館など歴史文化資源の有効活用が期待される。

©chiba-dainana

小単元の問い：沼袋が誰にとっても住み続けられるよりよい地域となるためにはどうしていくべきか。

目標：自分たちが住む沼袋の地域的特色を多面的・多角的に捉えよう。

★1 沼袋とはどんな地域か、資料14を見て

大まかに捉えよう。（平成27年2月現在）

①：人口

約10,000世帯

②：交通 西武新宿線が東西に、中野駅と練馬駅を結ぶバス1系統が南北に運航している。

③：沼袋駅から新青梅街道までのバス通りが商店街になっている。

④：周辺に、平和の森公園、江古田の森公園、哲学堂公園という大規模な公園がある。

⑤：南側に妙正寺川が流れている。

14

沼袋地区の範囲

沼袋地区の
地図
道路、公園、鉄道
など

1 自然環境から見る沼袋（自然との共生）

(1) 地図（別紙）について、妙正寺川を「青」、道路幅員が

4m以下は「赤」、公園を「緑」でそれぞれ着色しなさい。

(2) 妙正寺川付近の沼袋駅周辺で予測される災害は？

(3) 自然環境への向き合い方として、もう一度考えてみよう。

①：現在、(2)に対する防災対策は都や区でされている。

例えば、

----- (FWを思い出して) -----

しかし、昨今の自然災害を見ても、(1)が困難な時代。このままでいいのか？

②：周辺に大規模な公園はあるが、資料16のような住宅地内の“みどり”を守り増やすことがなぜ必要なのか。様々な立場の人、状況（例えば、暑い中FWしたよね・・・笑）を考える。

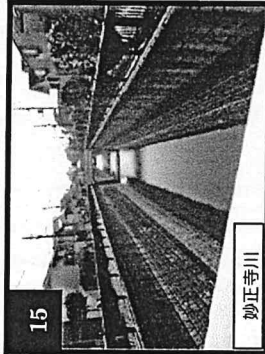
⇒ 自然との向き合い方、関わり方を今一度考える必要はないか。

2 賑わいから見る沼袋（経済）

(1) “まちな活性化”のための再開発

資料17沼袋の商店街を例にとると、(チェーン店など大型店 or 小さな個人商店)が多い。商業活力が()しているため、商店街の充実、活気、賑わいなどの活性化が必要である。

15



妙正寺川

16



住宅地内のみどり(例)

17



中野区立歴史民俗資料館

禅定院

(2) 課題解決をしつつ、“まちな活性化”につなげる再開発

① 地域調査でのFWや作図を振り返ってみると、商店街の幅員は(十分・不十分)であった。資料18を見てわかる通り、その通りは、()が道幅ざりざりを走っている。

→ 交通量が多く、自転車による接触事故等が発生している。

→ 人・自転車・車が交錯する道路が通勤通学路になっている。

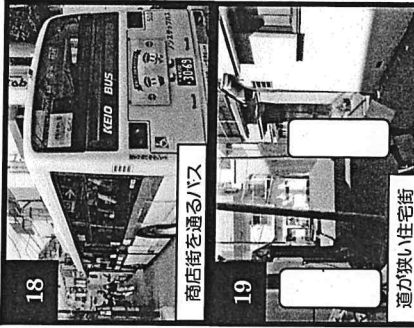
② 低層の()が密集していて、地震による建物倒壊、()の危険性が高い。

→ 資料19を見てもわかる通り、道路の幅員も狭く、

()が通行できない可能性もある。

⇒ 上記の①②を解決する意味でも、()は必要！？

18



商店街を通るバス

19



道が狭い住宅街

3 地域に暮らす人々のつながりから見る沼袋（社会）

(1) 沼袋地区では、消火栓・消火器・防災資材倉庫等の備えはあるが、災害時の高齢者等へのサポートなどのため、資料20のように町会や住民による()を強めたい。

(2) 区民活動センター周辺を生かした

地域コミュニティ活動や交流の場の創出。

→ 例：資料21コミュニティ広場・・・

・・・「人々の出会いや交流の場となる場所」

(3) 商店街や寺社などのイベントやお祭りを

生かした、交流が深まるコミュニティ活動の

活性化。 → 例：資料22「沼袋氷川 例大祭」、「丸山塚公園 納涼盆踊り大会」など

⇒ つながりを強めることは、防災・減災のみならず、暮らしやすい地域に必要か。

20



地域を守る共助の推進

22



沼袋氷川 例大祭

【“沼袋”と“私”】：これまでの地域の思い出を書いてみよう。どんなことでもOK。

4 沼袋に関する補足資料①

小集元の問い：沼袋が誰にとっても住み続けられるよりよい地域となるためにどうしていくべきか。

目標：自分たちが住む沼袋の地域的特色を多面的・多角的に捉えよう。

1 沼袋の補足資料一覧

(1) 沼袋の人口構成

補足1

対象地区の人口構成

・対象地区の高齢化率は21.6%と中野区全体20.4%を上回っている。

項目	対象地区		中野区全体 (%)
	人口 (人)	割合 (%)	
年少人口	1,425	8.3	8.6
生産年齢人口	12,010	70.0	71.0
高齢者人口	3,710	21.6	20.4
地区人口	17,145	100.0	100.0

資料：住民基本台帳（平成24年1月）

※高齢化率：65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合

※年少人口：0歳～14歳までの人口

※生産年齢人口：15歳以上65歳未満の人口

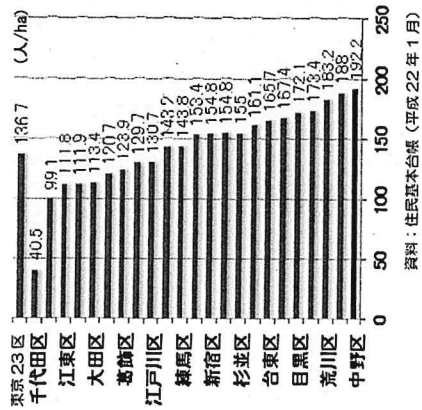
※高齢者人口：満65歳以上の高齢者の人口

(2) 沼袋の人口密度

補足2

・中野区の人口密度は23区中最も高く、沼袋1丁目、沼袋3丁目、沼袋4丁目の人口密度は中野区全体の192.2人/haを超えている。

■東京23区の人口密度



資料：住民基本台帳（平成22年1月）

■対象地区の町丁目別人口密度

町丁目	人口密度 (ha当たり)
中野区	192.2
沼袋一丁目	209.7
沼袋二丁目	182.3
沼袋三丁目	196.9
沼袋四丁目	205.9
江古田四丁目	191.8
対象地区	196.7

資料：住民基本台帳（平成22年1月）

(3) 鉄道に関する駅別乗降客数の推移

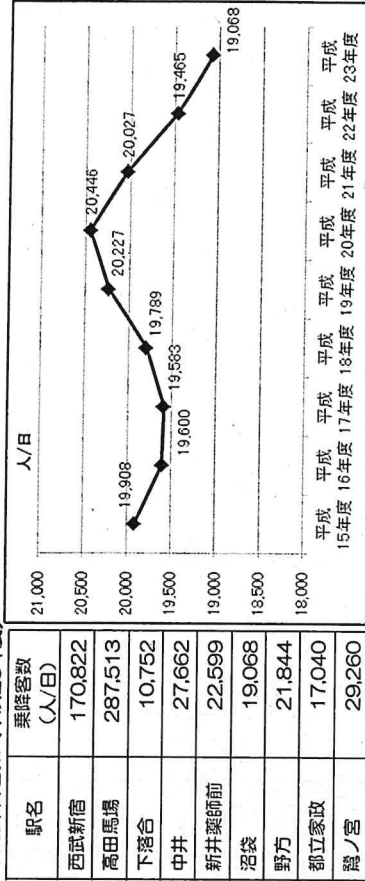
補足3

鉄道

・西武新宿線沼袋駅の1日当たりの平均乗降人員は19,068人/日（平成23年度）で、沿線の駅の中では乗降人員が少ない。

・沼袋駅の乗降人員は、平成20年度の最高20,446人/日からこの3年で約1,400人減少した。

■駅別乗降客数（平成23年度）



資料：西武鉄道（株）ホームページ

下は、令和2年（2020年）の西武線乗降客数全データ

駅名	乗降人員	指数		
2020年度	前年度			
池袋線				
1池袋	394,791	484,665	69	
49博多	15,934	20,649	77	
32東長崎	21,461	27,613	78	
37江古田	20,042	35,267	57	
59庄内	11,932	14,699	80	
5練馬	98,982	133,700	73	
22中村	31,059	41,021	76	
34池袋西口	21,197	27,936	76	
35練馬高野台	21,139	27,227	77	
9石神井公園	61,897	82,907	75	
8大塚西	64,601	67,559	74	
14原宿	47,517	63,732	75	
12ひばりヶ丘	53,311	74,939	74	
16東久留米	41,482	54,968	75	
13池袋	51,992	69,576	75	
10秋葉原	60,097	81,168	74	
21小手指	19,577	25,720	77	
42狭山ヶ丘	18,651	25,071	74	
45武蔵浦和	17,739	24,182	73	
69国領山公園	6,377	10,953	65	
29人形町	24,424	33,713	74	
66弘明寺	7,760	10,979	71	
76元加治	4,610	7,055	66	
31鷹野	21,743	32,929	66	
池袋線				
78東池袋	4,141	5,651	73	
84高野	1,690	2,597	65	
90武蔵横手	223	295	76	
88東香野	346	456	76	
87香野	449	617	73	
西武池袋線				
22中井	220	343	64	
92正丸	144	194	74	
89戸ヶ久保	231	340	68	
95横須賀	691	1,712	52	
79西武株父	3,739	7,146	52	
西武東上線				
4小竹向原	104,135	147,820	70	
68新井	6,986	9,933	70	
池袋線				
61鷺ノ宮	9,620	14,261	68	
72下山口	5,947	8,012	74	
77西武球場前	4,419	13,530	32	
86蓮沼	512	682	75	
新井薬師前				
3西武池袋	121,462	163,666	66	
2高田馬場	207,124	307,682	69	
63下落合	9,152	12,435	74	
39中井	18,915	29,247	65	
池袋線				
43東大和	18,820	25,177	74	
23三川上木	39,250	42,416	70	
62武蔵砂川	9,195	12,255	75	
64西武立川	9,953	11,705	77	
26練馬	27,526	38,317	76	
西武東上線				
81西武園	2,537	3,591	71	
西武東上線				
6国分寺	83,466	117,796	71	
60蓮ヶ窪	10,982	12,851	79	
46鹿の台	18,225	25,914	63	
36小川	21,015	29,859	70	
多摩池袋線				
50一橋学園	15,821	21,189	74	
70青柳町	6,293	8,367	75	
67秩山	7,429	10,118	73	
75八坂	4,816	6,171	78	
73武蔵大和	5,609	7,389	76	
83西武宮前	1,812	2,597	70	
多摩池袋線				
33武蔵境	21,292	30,854	69	
80飯小	3,095	4,041	77	
65多摩	7,934	13,797	58	
74白糸台	6,439	8,439	77	
62練馬	2,261	2,924	77	
71豊前	6,066	7,898	77	
各	計	2,587,520	3,617,474	72

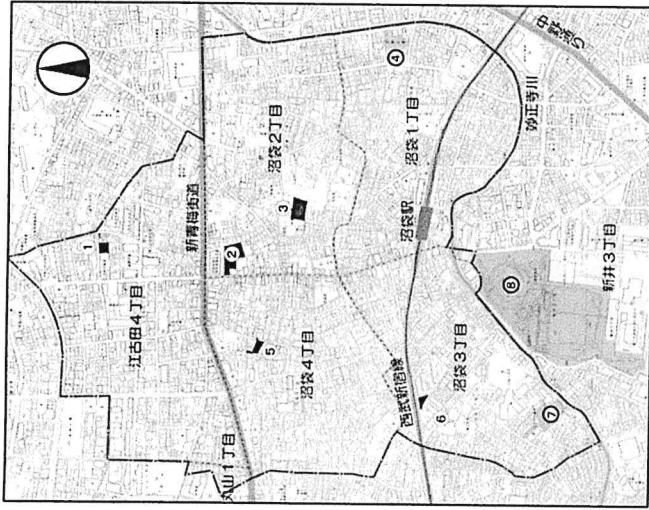
沼袋 14,956人（前年度 20,290人）

4 沼袋に関する補足資料②

組 番 氏名

(5) 中野区の公園マップ

■中野区の公園マップ



東京都2500デジタル白地図 東京都縮尺1/2500 地形図 (平成23年時版)
資料：中野区ホームページ(公園マップ)より作成

(4) 沼袋の緑被率

■対象地区の緑被率

町丁目	緑被率 (%)
対象地区	15.73
中野区	16.37

資料：中野区緑実態調査(第四次)
(平成20年1月)

補足4

公園の状況

・対象地区には5haを超える平和の森公園が隣接している。しかし、対象地区内には7箇所(9,921㎡)の都市公園等があるもの、地区面積約89haに対して1.1%、地区人口17,145人に対して一人当たり0.58㎡と中野区全体と比較しても大変少ない状況である。

■対象地区の公園一覧

名称	面積 (㎡)
① 江古田のいしの木公園	189
② 丸山塚公園	2,718
③ 百観音公園	855
④ 沼袋公園	1,947
⑤ 沼四緑の公園	568
⑥ さんかく公園	332
⑦ 沼袋西公園	3,312
合計	9,921
対象地区の公園地率	1.1%
対象地区一人あたり公園面積	0.58㎡

【参考】

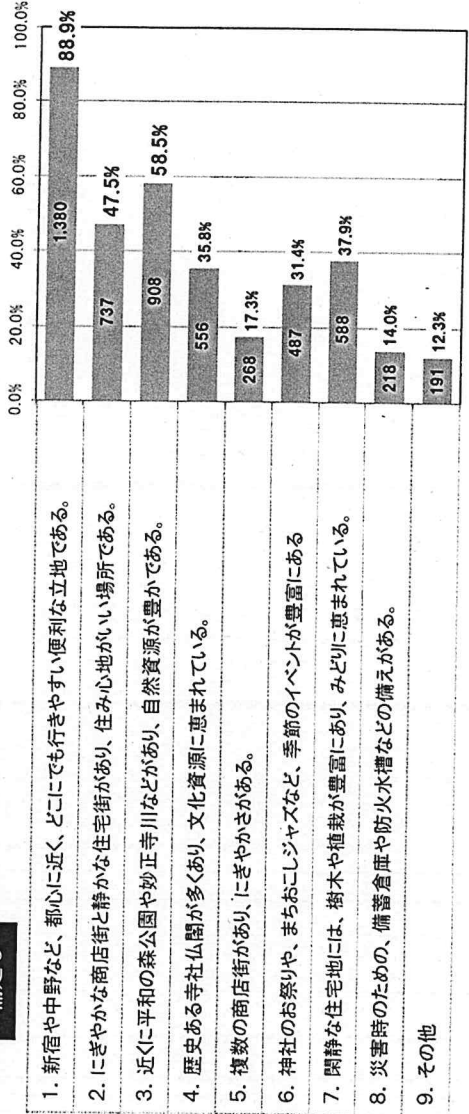
⑧ 平和の森公園	54,659
----------	--------

●調査概要・回収状況

【調査目的】まちづくり検討会において、これまで検討した内容について、地域の皆様からご意見を頂くため、アンケートを実施しました。
 【調査期間】平成25年8月中旬～9月上旬
 【対象者】対象地区にお住まいの方、事業を営まれている方、勤めている方
 *対象地区：沼袋1～4丁目(全棟)、江古田4丁目(全棟)、丸山1丁目(1番)、新井3丁目(1番と38番)
 【実施方法】対象地区の方にアンケート用紙を配布し、郵送にて回収
 【回収状況】配布数：9,716世帯/回収数：1,553件(回収率：約16.0%)
 【回答者の属性】
 ・ご回答いただいた方の男女比は、女性55%、男性44%でした。
 ・年齢は、30歳代から70歳代まで平均的に回答がありました。
 ・住まい・勤務先等の位置は、沼袋1～4丁目、江古田4丁目から平均的に回答がありました。
 ・沼袋のまちとの関係性は、9割以上が住んでいる方からの回答でした。
 ・土地や建物の所有状況は、土地・建物ともに所有されている方が55%、建物や部屋を借りている方が37%、建物のみを所有されている方が7%でした。
 ・家族構成は、親子が35%、単身が31%、夫婦のみが20%、親子・孫の三世帯家族が8%でした。
 ・居住年数は、5年未満の方から50年以上の方までほぼ平均的に回答がありました。

(6) 沼袋の聞いた町の魅力アンケート

補足5



5 よりよい地域の在り方を考える

組 番 氏名

©chiba-dainana

よりよい地域を考える際に、どんな視点で考えたとよいのか、それを指し示したものである。1人5ポイント持っていて、自由にポイントを振り分けられる。なぜ、その領域を高いポイントとしたのか、根拠をもって説明しよう。

小単元の問い：沼袋が誰にとっても住み続けられるよりよい地域となるためにはどうしていくべきか。

目標：10年後の、誰にとっても“キラリ輝く沼袋”とはどのような町なのかを考えよう！

10月某日、「よりよい沼袋の在り方」を議題とする中野区主催意見交換会の会場にいます。ここには、区長を始め、中野区議会議員数名、そして地域の人々から参加しており、あなたは地域に暮らす中学生代表として参加しています。

司会：令和3年5月に改定された「中野区基本構想」において、10年後に目指すまちの姿が発信されています。そこには、「つながる はじまる なかの」とあり、中野から日本全国に地域の在り方を発信させようとする思いが見られます。

それを受けて、今回は、「沼袋」のよりよい在り方を考えていきたいと思えます。地域発展の研究にお詳しい3名の専門家にもお越し頂いております。イクメー教授、マテヨ教授、ツナガロ教授です。(拍手パチパチパン)

では、さっそく各教授に地域の在り方について、ご意見を伺いたいと思えます。「10年後の誰にとってもキラリ輝く沼袋、防災・減災も含めた沼袋のよりよい在り方について、皆さんはどのようにお考えですか。」

イクメー教授：「皆さんもご存じの通り、この沼袋商店街をもっと活気あふれるものにする必要があります。まずは、街を活性化させましょう。」

マテヨ教授：「いやいや、それは違う。昨今の自然災害をご存じないのですか。自然環境にどう向き合うべきなのか、これをもう一度考え直す必要はありませんか。」

ツナガロ教授：「お二人の意見もわかります。ですが、災害時において、一番は人のつながりです。減災の意味も踏まえて、まずは地域のつながりから考えませんか。」

司会：「なるほど〜。難しい問題ですね……。中学生であるあなたのご意見を率直に聞かせてください。」

専門家3名の意見が真っ向対立です。そこで、中学生代表であるあなたに、司会者から回答を求められました。何と答えますか。

★注意点★ ①：「在り方コンパス」を使い、なぜそう考えたのか、理由と合わせて考えを述べること。「在り方コンパス」は、東北地方の考察で使用したものと同様。

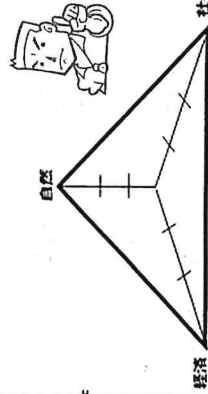
②：これまでの学習内容を使って、根拠をしっかりと示しながら回答すること。

1 思考ツールの確認

これからの活動にあたって、思考ツールの確認をしましょう。

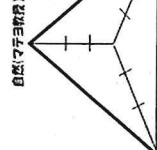
「在り方コンパス」と呼ばれるもので、中心からそれぞれ

「自然」、「経済」、「社会」の3つの領域が示されている。



2 個人の活動

(1) 本時の目標に対して、個人で取り組んでみよう。5ポイントを振り分け、そのように考えた理由を資料や既習事項など根拠を基に説明してみよう。



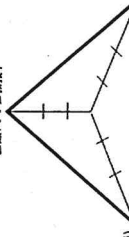
3 グループによる活動

★友だちの意見を聞いて、自分とは異なった視点や考え方、根拠などをメモしよう。

(1) 本時の目標に対して、3〜4人のグループ活動をしてみよう。友だちと意見を交わし、「在り方コンパス」にポイントを振り分けよう。個人同様に、なぜその領域を高いポイントとしたのか、資料や既習事項など根拠を基にその理由を考え、発表準備をしよう。



自然(マテヨ教授)



(2) グループの最終意見をまとめよう。

★今回の発表に向けての原稿作成★

感想欄：地域の一員として暮らす中学生の自分は、よりよい地域のために何かができるだろうか。

6 よりよい地域の在り方を考える

組 番 氏名

★他グループの意見を聞いて、自分とは異なる視点や考え方を、根拠などをメモしよう。

小単元の問い：沼袋が誰にとっても住み続けられるよりよい地域となるためにはどうしていくべきか。

目標：10年後の、誰にとっても“キラリ輝く沼袋”とはどのような町なのかを考えよう！

10月某日。「よりよい沼袋の在り方」を議題とする中野区主催意見交換会の会場にいます。ここには、区長を始め、中野区議会議員数名、そして地域の人々らが参加しており、あなたは地域に暮らす中学生代表として参加しています。

司会：令和3年5月に改定された「中野区基本構想」において、10年後に目指すまちの姿が発信されています。そこには、「つながる はじまる なかの」とあり、中野から日本全国に地域の在り方を発信させようとする思いが見取れます。

それを受けて、今回は、「沼袋」のよりよい在り方を考えていきたいと思えます。地域発展の研究にお詳しい3名の専門家にもお越し頂いております。イクム一教授、マテヨ教授、ツナガロ一教授です。(拍手パチパチ)

では、さっそく各教授に地域の在り方について、ご意見を伺いたいと思えます。

「10年後の誰にとってもキラリ輝く沼袋、防災・減災も含めた沼袋のよりよい在り方について、皆さんはどのようにお考えですか。」

イクム一教授：「皆さんもご存じの通り、この沼袋商店街をもっと活気あふれるものにする必要があります。まずは、街を活性化させましょう。」

マテヨ教授：「いやいや、それは違う。昨今の自然災害をご存じないのですか。自然環境にどう向き合うべきなのか、これをもう一度考え直す必要はありませんか。」

ツナガロ一教授：「お二人の意見もわかります。ですが、災害時において、一番は人のつながりです。減災の意味も踏まえて、まずは地域のつながりから考えませんか。」

司会：「なるほど。難しい問題です。中学生であるあなたのご意見を率直に聞かせてください。」
専門家3名の意見が真っ向対立です。そこで、中学生代表であるあなたに、司会者から回答を求められました。何と答えますか。



1 前時グループ討議内容の発表原稿とメモ欄

2 個人の考察、構想（再度）

意見交換会も終盤に差し掛かってきました。

司会：これまで、10年後の誰にとってもキラリ輝く沼袋について、たくさん議論を重ねてきました。こうしている今にも、首都直下型地震が起こっても不思議ではありません。改めて、これまでの討論を聞いて、「防災・減災も含めた沼袋のよりよい在り方」とは、どのような在り方なのでしょう。今一度、中学生代表の方に聞いてみますね。では、お願いします。



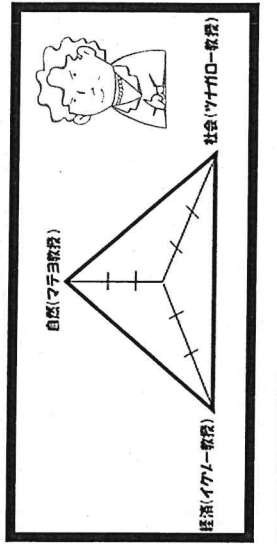
注意点★ ①：誰にとっても納得できるような意見とするために、多面的・多角的な内容に考慮して意見を考えること。(すべてを満たせるように最大限、努めること。)
②：既習事項を使い、資料など根拠をしっかりと示しながら回答すること。

(2) グループの最終意見をまとめよう。

評価のポイント (全体の流れで評価する)

- () ① 沼袋の地域的特色を捉え、資料など既習事項を活用し、よりよい在り方を適切に表現している
- () ② 様々な立場を考えよりよい地域となるよう、いろいろな面から具体的に表現している

理由：



評価

感想欄：地域の一人として暮らす中学生の自分分は、よりよい地域のために何かができるだろうか。

7 よりよい地域の在り方を考える

組 番 氏名

1 友だちの発表内容 & 意見交換会 メモ欄

小単元の問い: 沼袋が誰にとっても使ひ続けられるよりよい地域となるためにはどうしていくべきか。

目標: 10年後の、誰にとっても“キラリ輝く沼袋”とはどのような町なのかを地域に発信しよう!

10月某日。「よりよい沼袋の在り方」を議題とする中野区主催意見交換会の会場にいます。ここには、区長を始め、中野区議会議員数名、そして地域の人々らが参加しており、あなたは地域に暮らす中学生代表として参加しています。(ワークシート⑤、⑥と同様)



司会: 「これまでの討議を受けて、中学生もたくさん考えてくれていました。」

「どれも本当に乗晴らしい内容ばかりでした。」

「さて、この内容を『沼袋まちづくり検討会』に書面で提出したいので、そちらを書いて提出してからお帰りください。では、みなさん。またどこかでお会いしましょう。」
ということと、沼袋まちづくり検討会会長の納谷さん宛てに“よりよい沼袋の在り方”について自分の考えを書きましょう。ここでは、資料番号等は不要です。自分の考えを説明する際に、これまでの学習内容で活用した方がわかりやすいと判断したら、「〇〇のように・・・」など補足説明を入れるとよいでしょう。裏紙の手紙として渡します。丁寧に、大きな字で書いてください。

沼袋まちづくり検討会 会長 納谷 権

私の考えるよりよい沼袋の在り方とは……



発表者①:

発表者②:

発表者③:

発表者④:

発表者⑤:

発表者⑥:

発表者⑦:

2 個人の感想等

感想欄: 地域の一人として暮らす中学生の自分は、よりよい地域のために何ができるだろうか。

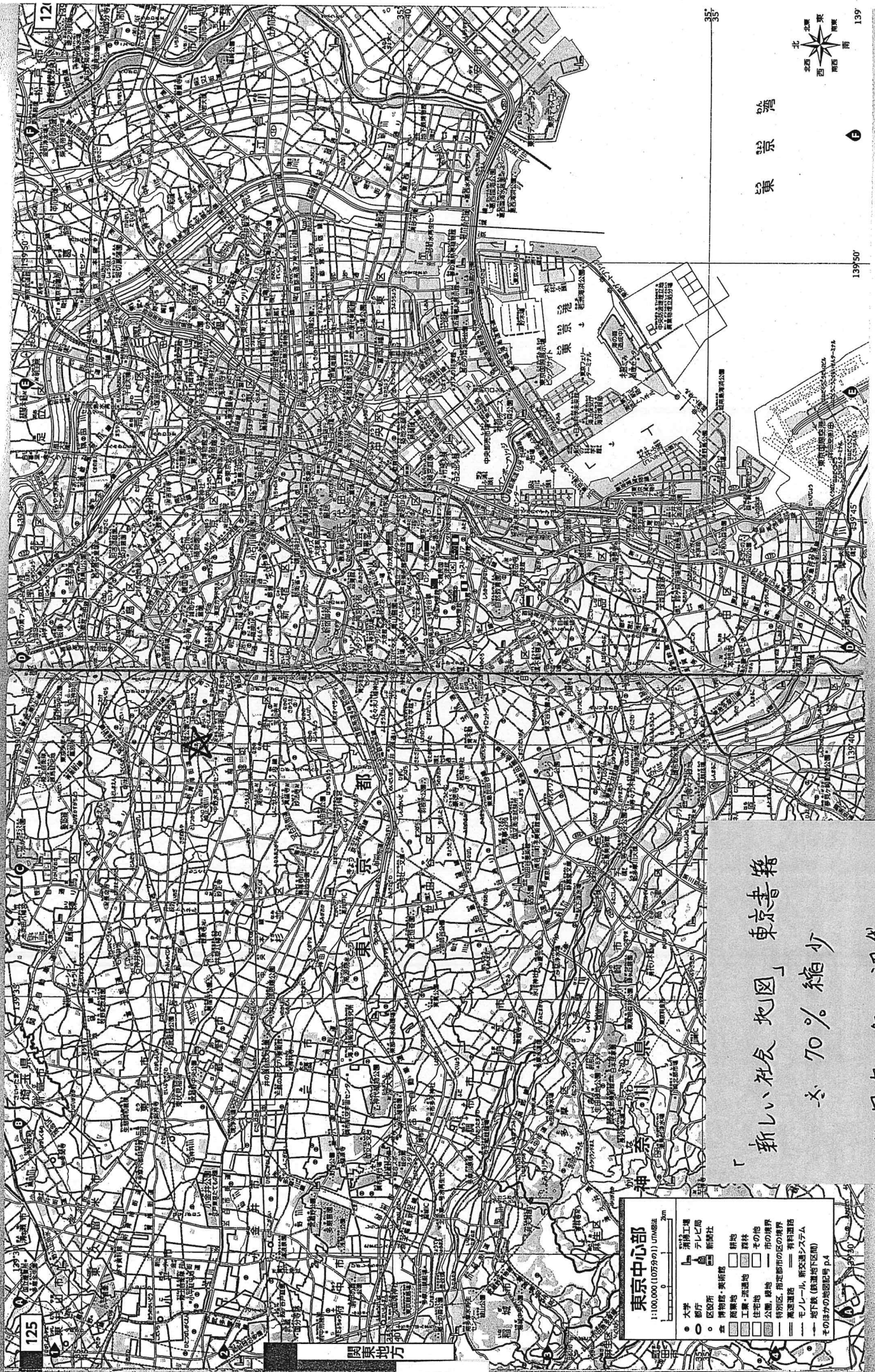


沼袋まちづくり検討会 会長 納谷 様

私の考えるよりよい沼袋の在り方とは……

Handwriting practice area consisting of 20 horizontal dashed lines.





東京湾



139

139°30'

「新しい社会地図」東京書籍

☆ 70% 縮小

地図内の☆…沼袋

東京中心部
1:100,000 (10万分の1) 1000m

● 大学	○ 区役所	■ 商業地	■ 工業・近遊地	■ 住宅地	■ 公園、緑地	■ 特別区、指定都市の区境界	■ 高速道路	■ モノレール、新交通システム	■ 地下鉄 (鉄道地下区間)
■ 清掃工場	■ テレビ局	■ 博物館・美術館	■ 農用地	■ 森林	■ その他	■ 市の境界	■ 有料道路	■ 有料道路	■ 地下鉄 (鉄道地下区間)
■ 消防局	■ 新聞社	■ 墓地	■ 農用地	■ 森林	■ その他	■ 市の境界	■ 有料道路	■ 有料道路	■ 地下鉄 (鉄道地下区間)

その他の地図記号 p.4

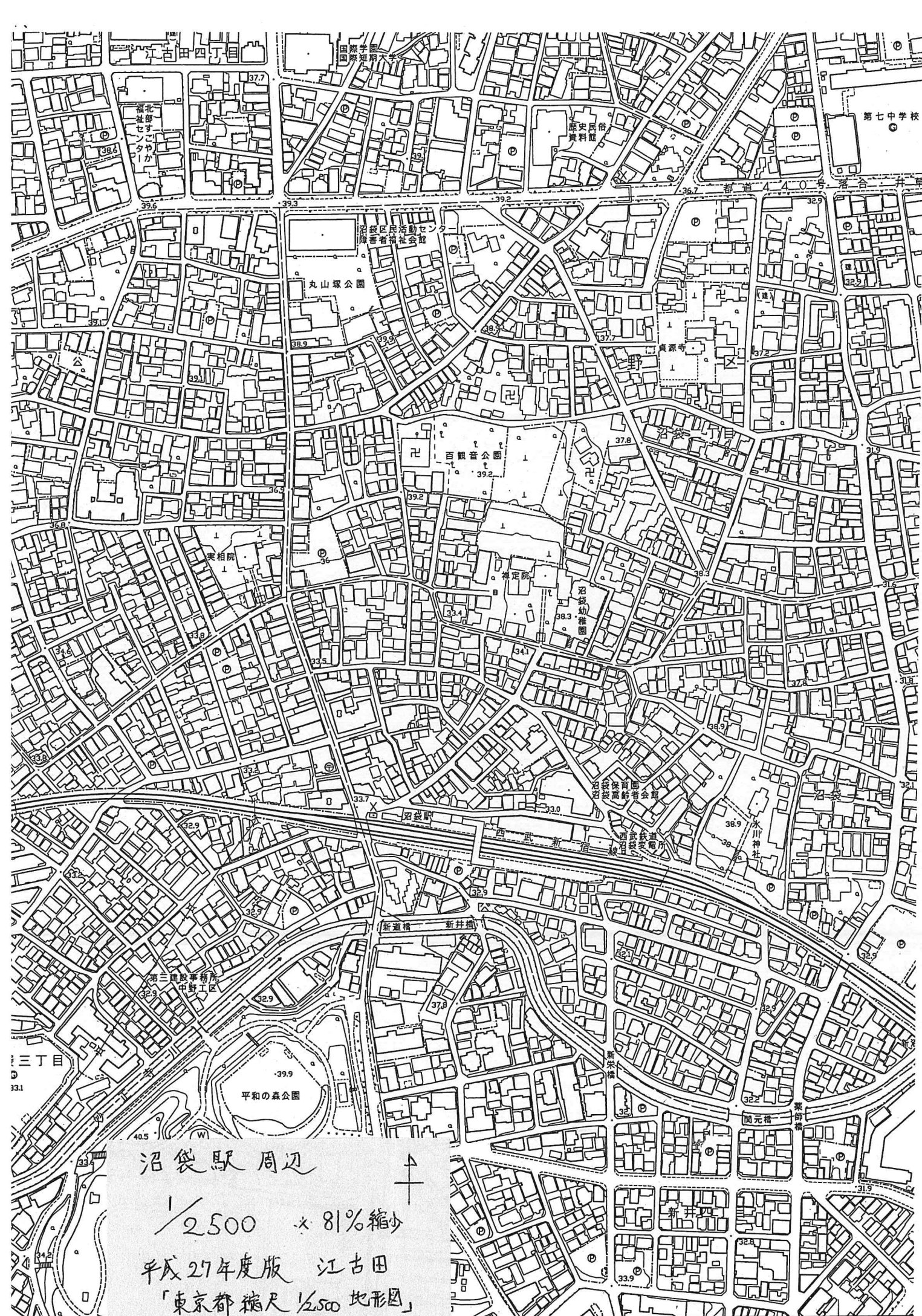


学校周辺
千

1/2500 ※ 46%縮小

平成27年度版 江戸田

「東京都箱尺 1/2500 地形図」



沼袋駅周辺

↑

1/2500 * 81%縮小

平成27年度版 江古田

「東京都縮尺1/2500地形図」

前時である 第5時におけるグループ討議の様子

音声等が聞き取りにくい部分があるため、話している内容をテキストにしています。

様子1：地域に住む生徒たちだからこそその葛藤

～場面説明（スライド表示あり）～

・女子生徒A（経済の視点を重視）：「（再開発を念頭に木密地域の一部である）商店街の耐震化を図るのがよい。建て替えなど商店街の道路拡張による安全で快適なまちづくりをしたい」と説明。

さらに、「（古くぬくもりある沼袋らしい）せんべい屋はあのまま残したい」と笑顔で説明。

～生徒発言内容～

女子生徒A：「（再開発し経済発展をさせる中で）家の耐震化工事を進めてみたり、商店街の方には建て替えしたり……。建て替えすればちょっと土地も狭くなっちゃうかもしれないけど、道幅も広くすることができると思う。耐震化を進めてみたり、商店街の建て替え、作り変えるみたいなの。せんべい屋とかあるじゃん。あれは、なんかあのまま残したい。」

様子2：誰にとっても……。という多角的な視点

～場面説明（スライド表示あり）～

・女子生徒B（経済の視点を重視）：「もし、災害が起きたら人口がますます減ってしまう。（これからの）若い世代を考えると再開発による防災が必要。」と説明。

これに対して

・男子生徒A（社会の視点を重視）：「でも、（本時の目標にある通りで）誰にとってもだから（高齢者を含むみんなのことを考えないといけない）」と反論。

～生徒発言内容～

女子生徒B：「それ（災害がないこと）があるからこそ、沼袋はギリ成り立ってるだけで、もし災害がきたとするじゃん。年寄り（*不適切な発言です。）がどれだけ逃げきれかわからないけど、若い人たち基本的に少ないわけだし、災害によってもっと人口が減るじゃない。」

男子生徒A：「（黒板に書いてある本時の目標を見ながら）でもさ、誰にとってもだからさ、全員がさ、よくないといけないんじゃないの？」

女子生徒B：「高齢者に視点をいたら……」

男子生徒A：「高齢者だけじゃなくね？（考えないといけないのは……）」

女子生徒B：「住んでいる人全員だからね……」

様子3：対話的な学びによる思考の変化と深まり

～場面説明（スライド表示あり）～

・女子生徒C（社会の視点を重視）：「社会のつながりが大事。」と説明し、社会の優先順位が低い男子生徒Bに理由を聞く。

これに対して

・男子生徒B（自然と経済の視点を重視）：「（二人の）意見を聞いたら大事だなと思った。」と返答。

また、

・女子生徒C, Dが、自然と経済の視点のみを重視する別の男子生徒Cに対して、関東地方の学習を振り返りながら、つながりが強いと協力しやすいといった社会の視点の説明をする。

～生徒発言内容～

女子生徒C：「社会を一番強くしたいんだけど。(話し合いの時間は) まだいいんじゃない?でも、反対にさ、男子生徒Bはさ、社会がいらないでしょ?」

男子生徒B：「(二人の) 意見聞いたら、社会も必要だなあって思った。」

女子生徒C：「んでさ、男子生徒Cは、完全に社会はゼロなんでしょ?」

男子生徒C：「うん。」

女子生徒C：「なんで?なんで?」

男子生徒C：「えっ、よくわからなかった。」

女子生徒C：「ああ、わかんないの? で、今(私たちの社会に対する説明) 聞いてどう思った?」

男子生徒C：「う～ん。こいつが何言っているのか、よくわからなかった。」

女子生徒C：「こいつ?ツナガロー?え～、だからさ、前、動画とか見たじゃん。浅草の・・・おしゃべりしてる感じ。ああいう感じ。人のつながり。」

男子生徒C：「つながってんの?」

女子生徒C：「地域さ、結束が強まるじゃん?んで、災害おきました。被害もびちゃびちゃ。火災もぼーぼー。焼野原。そのときに、人は生き残ろうとするわけよ。生き残った時に、もしさ、それで見知らぬ人ばっかでさ、体育館に集まんじゃん。周りに誰も知り合いがいなくて。その後の復興につなげにくいじゃん。それよりは、隣知っている人、「ああ、お疲れ」みたいな。」

女子生徒D：「つながりがあったほうが協力しやすいじゃん。」

女子生徒C：「ああ、それやりにいこう、みたいな話しやすいじゃん。わかる?それがつながりの良さだと思うし。」

様子4：自然対策だけでなく、人々の意識が重要

～場面説明(スライド表示あり)～

・女子生徒E(経済の視点を重視)：「社会のつながりが重要なのはわかる。でも、災害に対して自然対策しても完全に防げるはずがない。(だからこそ、再開発で防災に強いまちをつくるべきだ。)」と説明。これに対して

・男子生徒D(自然の視点を重視)：「(自然対策だけではなく) 防災は意識しなければならない。だから、避難訓練とかも併せて必要である。」と反論。

～生徒発言内容～

女子生徒E：「自然とさ、経済をめっちゃ高くしてるじゃん。確かにさ、自然も大事なのはわかるよ。でもさ、経済はわかるよ。災害はさ、午前でも午後でもいつくるかわからないし。防災だけ高めても東北地方みたいに、つながりが守れるわけがないじゃん。」

男子生徒D：「いや、(単純な自然への対策だけでなく) みんなが意識しないとだめじゃん。避難訓練とかあるやん。いや、どっかになかった・・・!？」

様子5：地域調査の手法を生かした構想

～場面説明（スライド表示あり）～

・女子生徒F（経済の視点を重視）：「（沼袋の地域的課題である）木密だからこそ再開発で防災が必要。公園の価値もわかるが、防災に特化した街づくりをするべきだ。」と説明。

これに対して

・男子生徒E：「（自然を重視する理由として、緑被率等の資料から）公園数が少ない。大きな公園はあるが、坂になっていて心配。江古田の森にあったような貯水池が必要ではないか。」と反論。

～生徒発言内容～

女子生徒F：「木密地域だからこそさ、地域のよさをいかした防災を強めるさ・・・」

男子生徒E：「（経済の視点を重視していることから）再開発をした方がいいってこと？」

女子生徒F：「確かにさ、公園とかさ、火を止めることとかできるかもしれないけど、増やすのもいいかもしれないけど、大切だと思うけど。再開発をしてすごい災害に特化したマンションとか建てれば、まちを作れば必要ないんじゃないかなって。避難するのにもさ・・・」

男子生徒E：「似たことになるかもしれないけど、いいすか。」

女性生徒F：「はい、どうぞ、どうぞ。」

男子生徒E：「公園が大事だと思ったことは他にもあって。まず、これ（既習事項4沼袋の資料をさして）少ない。少ない。少ない。ここも結構こういうの（裏付ける資料。緑被率やアンケート調査など）あって・・・で、あの、この辺水害あるじゃん。ここに公園おいたらいいと思ったのよ。なんでかという、ここに一応でかい公園あるんだけど、ここ坂になってんのよ（地図やフィールドワークから）。公園まで水がいかない。だから、この辺が水害になったら、堤防決壊したらやばいかなと思って、（FWで行った）江古田の森みたいに貯水池にしたら、なんかいい感じになるんじゃないかなあと思って・・・」

様子6：東北地方の学習をいかした強い思いと揺れる心

～場面説明（スライド表示あり）～

・自然や経済の視点を重視する女子生徒Gに対して

男子生徒F（社会の視点を重視）：「人々のつながりがなければ、人は来ないんだって！東北の時もそうだったろう？（経済の視点である再開発は）ちょっとずつ（住民の理解を得ながら）やっていくべきだ。」と反論。

別の男子生徒Gは、「（グループとしての考えを示す在り方コンパスの）三角形は同じなのに、意見が全然違うなあ。」と価値判断に困っている。

～生徒発言内容～

男子生徒F：「だから、人々のつながりがないと・・・東北の時もそうだろう？人來ないだから、やって。だからこれが一番大事であって、その上でちょっとずつやっていけば、住民もね「ああ、んじゃこれならいいよ」とかね、そういうことってあるでしょって。」

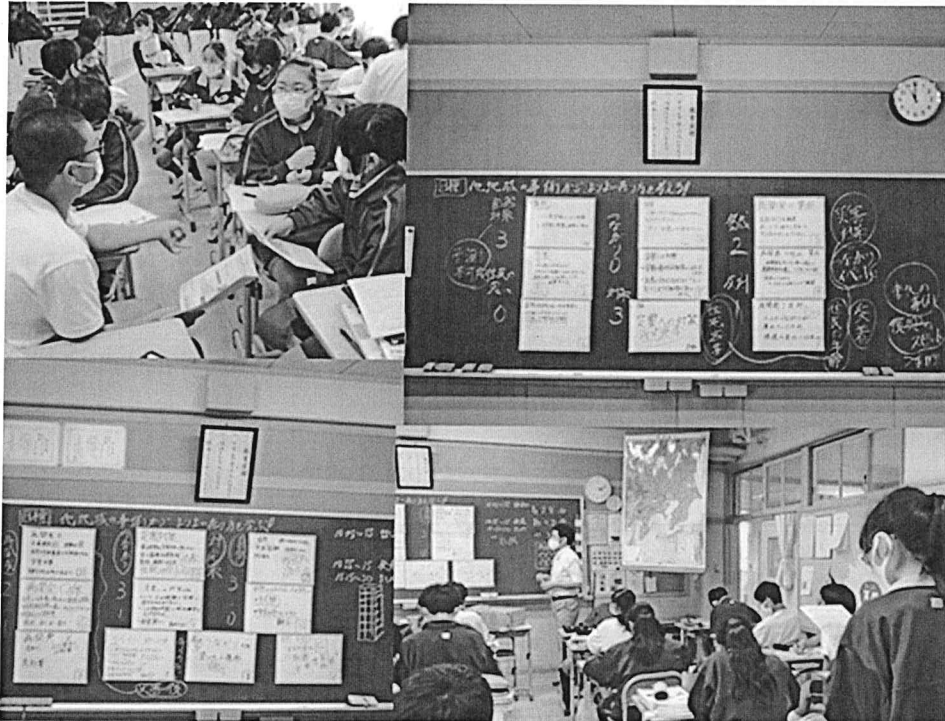
男子生徒G：「三角形は同じなんだけど、意見が全然違うね・・・」

<これまでの“学習のまとめり”振り返り>

東北地方におけるグループ討議「人とのつながり：どれだけ復興できるかが大事」

男子生徒の発言内容

「人とのつながりもあれば、つながりがあって外部とつながる人もいればどんどん発展していけるし、自然は予測ができないから、どんなめっちゃ大きな（災害）がきたら対策ができないから、その対策したところであってというか、対策してもそれを復興できるかが大事だと思って。だってさ、どれだけ・・・」



★他グループの意見を聞いて、自分とは異なった視点や考え方を、根拠などをメモしよう。

2. 個人の考察、構想 (再度)

意見交換会も終盤に差し掛かってきました。

司会 : これまで、10年後の誰にとってもキラリ輝く沼袋について、たくさんの方の議論を重ねてきました。こうしている今にも、首都直下型地震が起こっても不思議ではありません。改めて、これまでの議論を聞いて、「防災・減災も含めた沼袋のよりよい在り方」とは、どのような在り方なのでしょう。今一度、中学生代表の方に聞いてみますね。では、お願ひします。

注意★ ①: 誰にとっても納得できるような意見とするために、多面的・多角的な内容に考慮して意見を考えること。(すべてを満たせるように最大限、努めること。)

②: 既習事項を使い、資料など根拠をしっかりと示しながら回答すること。



(2) グループの最終意見をまとめよう。

評価のポイント (全体の流れで評価する)

(9) ① 沼袋の地域の特徴を捉え、資料など既習事項を活用し、よりよい在り方を適切に表現している
 (9) ② 様々な立場を考えよりよい地域となるよう、いろいろな面から具体的に表現している

理由: 私の考える10年後の「キラリ輝く沼袋」とは「安全で誰の心も安らぐ」ことだと考えました。そして、そのために「防災・減災」だけでなく「環境・文化・経済」の面で、地域全体で取り組むことが必要だと感じました。これを表現するために、本郷地域の再開発と、公園作りが必要だと感じました。この町に多目的な公園を建設して、周辺の自然環境と調和させることで、公園が住民の憩いの場となり、地域の活性化に貢献できると思います。

評価: A

感想欄: 地域の一員として暮らす中学生の自分達、よりよい地域のために何かできるだろうか。積極的に地域の賑りなどのイベントに参加し、町の人がそれぞれの未来に関心をもちたい。

「安全で誰の心も安らぐ」とは、防災・減災だけでなく、環境・文化・経済の面で、地域全体で取り組むことが必要だと感じました。これを表現するために、本郷地域の再開発と、公園作りが必要だと感じました。この町に多目的な公園を建設して、周辺の自然環境と調和させることで、公園が住民の憩いの場となり、地域の活性化に貢献できると思います。

★他グループの意見を聞いて、自分とは異なる視点や考え方を、根拠などをメモしよう。

2 個人の考察、構想 (再度)

意見交換会も終盤に差し掛かってきました。

司会 : これまで、10年後の誰にとってもキラリ輝く沼袋について、たくさん議論を重ねてきました。こうしている今にも、首都直下型地震が起こっても不思議ではありません。改めて、これまでの議論を聞いて、「防災・減災も含めた沼袋のよりよい在り方」とは、どのような在り方なのでしょう。今一度、中学生代表の方に聞いてみますね。では、お願いします。

注意★ ①: 誰にとっても納得できるような意見とするために、多面的・多角的な内容に考慮して意見を考えること。(すべてを満たせるように最大限、努めること。)

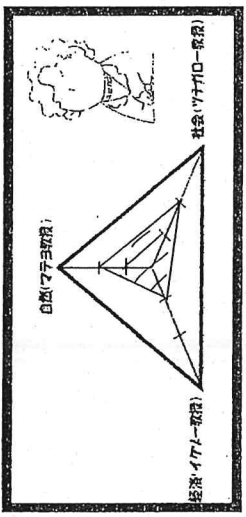
②: 既習事項を使い、資料など根拠をしっかりと示しながら回答すること。

(2) グループの最終意見をまとめよう。

評価のポイント (全体の流れで評価する)

(○) ① 沼袋の地域的特色を捉え、資料など既習事項を活用し、よりよい在り方を適切に表現している
(○) ② 様々な立場を考えよりよい地域となるよう、いろいろな面から具体的に表現している

理由: 私は、沼袋が、人とのつながりが強く、昔ながらの商店街としてにぎやかな地域にしたい。そのためには、社会を大事にしなくてはならない。沼袋の緑地が整備されている。もし、地震が来たら、木造住宅により、火災の被害が拡大される可能性がある。緑地を縮めると、人とのつながりが崩れると地域が壊れる。東北の震災で、その木造住宅を建て直さずには、自然の力が必要不可欠。沼袋の資料館で、その力を活かそう。緊急車両が通しやすい。道幅がせまい。商店街がにぎやかではない。補足から、公園が少なくていい。これは、地震が起きた時、被害が拡大しない。と、思った。そのお母さんが公園に降り、道幅を広げたい。と、思った。しかし、



沼袋の緑地を縮めると、人とのつながりが崩れると地域が壊れる。東北の震災で、その木造住宅を建て直さずには、自然の力が必要不可欠。沼袋の資料館で、その力を活かそう。緊急車両が通しやすい。道幅がせまい。商店街がにぎやかではない。補足から、公園が少なくていい。これは、地震が起きた時、被害が拡大しない。と、思った。そのお母さんが公園に降り、道幅を広げたい。と、思った。しかし、

評価 A

感想欄: 地域の一員として暮らす中学生の自分は、よりよい地域のために何ができるだろうか。地域の人と積極的に関係することで、災害時に協力できる。

「理髪会や祭りなどの裏方作業をするなど...」
近所の緑地を積極的に活用して、木を植える。

沼袋の良さは、歴史のある住宅と商店街、人とのつながりだと思ってる。その面を強化するべきだと思う。春祈を他の地域の人の力にも発信していくべきです。

他グループの意見を聞いて、自分とは異なった視点や考え方、根拠などをメモしよう。

2) 個人の考察、構想 (再度)

意見交換会も終盤に差し掛かってきました。

倫 : これまで、10年後の誰にとってもキラリ輝く沼袋について、たくさんの議論を重ねてきました。こうしている今にも、首都直下型地震が起こっても不思議ではありません。改めて、これまでの議論を聞いて、「防災・減災も含めた沼袋のよりよい在り方」とは、どのような在り方なのでしょう。今一度、中学生代表の方に聞いてみますね。では、お願いします。

注意★ ①: 誰にとっても納得できるような意見とするために、多面的・多角的な内容に考慮して意見を考えること。(すべてを満たせるように最大限、努めること。)

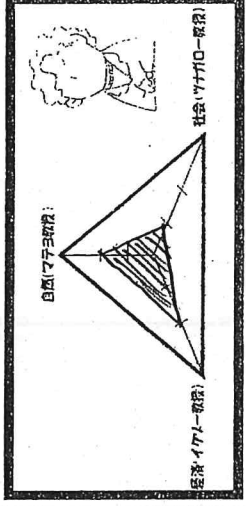
②: 既習事項を使い、資料など根拠をしっかりと示しながら回答すること。

(2) グループの最終意見をまとめよう。

輪のポイント (全体の流れで評価する)

① 沼袋の地域的特色を捉え、資料など既習事項を活用し、よりよい在り方を適切に表現している

② 様々な立場を考えよりよい地域となるよう、いろいろな面から具体的に表現している



理由: 沼袋のよりよい在り方は本質などの再開発をして暮しやすい町をつくらんとど思います。なぜなら災害を未然にできるだけ防ぎたい妻があるからです。東北(2.2.2)より東北の復興状況に不満を抱いている人は多いですが、関東圏資料系より、都市には多くの機関や情報が集まっています。災害がおきた場合、関係が止まるなど、被害は東北の比にならなると思っています。

感想欄: 地域の一員として暮らす中学生の自分は、よりよい地域のために何ができるだろうか。地域の特徴や良いところを各校から探していく

また、安全な町づくりは人々の安心にもつながるが、この活気もどくするはず。沼袋の豊富な歴史文化資源を活用してグローバル化などではかれたいらお金も稼げて、高齢者や子供などのための公共施設とかも増やせると思います。沼袋の良さものこしつつ再開発をすすめていければいいと思います。

⑥よりよい地域の在り方を考える

氏名

★他グループの意見を聞いて、自分とは異なった視点や考え方、根拠などをメモしよう。

小単元の問い：沼袋が誰にとっても住み続けられるよりよい地域となるためにはどうしていくべきか。

目標：10年後の、誰にとっても「キラリ輝く沼袋」とはどのような町なのかを考えよう！

10月某日、「よりよい沼袋の在り方」を議題とする中野区主催意見交換会の会場にいます。ここには、区長を始め、中野区議会議員数名、そして地域のみなさんが参加しており、あなたは地域に暮らす中学生代表として参加しています。

司会：令和3年5月に改定された「中野区基本構想」において、10年後に目指すまちの姿が発信されています。そこには、「つながる はじまる なかの」とあり、中野から日本全国に地域の在り方を発信させようとする思いが見られます。

それを受けて、今回は、「沼袋」のよりよい在り方を考えていきたいと思えます。地域発元の研究にお詳しい3名の専門家にもお越し頂いておられます。イクメー教授、マテヨ教授、ツナガロ一教授です。(拍手パチパチパン)

では、さっそく各教授に地域の在り方について、ご意見を伺いたいと思えます。

「10年後の誰にとってもキラリ輝く沼袋、防災・減災も含めた沼袋のよりよい在り方について、皆さんはどのようにお考えですか。」

イクメー教授：「皆さんもご存じの通り、この沼袋商店街をもっと活気あふれるものにする必要があります。まずは、街を活性化させましょう。」

マテヨ教授：「いやいや、それは違う。昨今の自然災害をご存じないのですか。自然環境にどう向き合うべきなのか、これをもう一度考え直す必要はありませんか。」

ツナガロ一教授：「お二人の意見もわかります。ですが、災害時において、一番は人のつながりです。減災の意味も踏まえて、まずは地域のつながりから考えませんか。」

司会：「なるほど、難しい問題です。中学生であるあなたのご意見を率直に聞かせてください。」
専門家3名の意見が真っ向対立です。そこで、中学生代表であるあなたに、司会者から回答を求められました。何と答えますか。



1 前時グループ討議内容の発表原稿とメモ欄

2 個人の考察、構想(再度)

意見交換会も終盤に差し掛かってきました。

司会：これまで、10年後の誰にとってもキラリ輝く沼袋について、たくさん議論を重ねてきました。こうしている今にも、首都直下型地震が起こっても不思議ではありません。改めて、これまでの討論を聞いて、「防災・減災も含めた沼袋のよりよい在り方」とは、どのような在り方なのでしょう。今一度、中学生代表の方に聞いてみますね。では、お願いします。



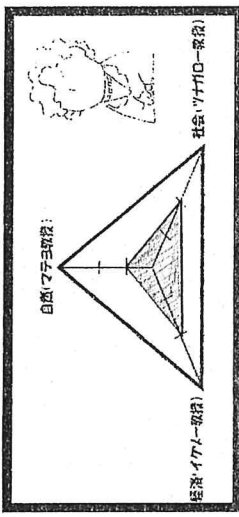
注意★ ①：誰にとっても納得できるような意見とするために、多面的・多角的な内容に考慮して意見を考えること。(すべてを満たせるように最大限、努めること。)
 ②：既習事項を使い、資料など根拠をしっかりと示しながら回答すること。

(2) グループの最終意見をまとめよう。

評価のポイント (全体の流れで評価する)

- (9) ① 沼袋の地域的特色を捉え、資料など既習事項を活用し、よりよい在り方を適切に表現している
- (10) ② 様々な立場を考えよりよい地域となるよう、いろいろな面から具体的に表現している

理由：私のよりよい在り方は、防災・減災に取入れられ、災害が起きたときに安心できるまちを築きたいです。また、水害や水害による被害などがあります。これは地域で自分と通じやすい課題です。なのでまずは自分の地域の特色を理解し、1人1人が意識する事が大切です。また、この問題には再開が必要だと考えます。再開をする事で水害や水害の対応が出来ます。また、誰でも利用しやすいものになれば高齢者の割合が多いため、沼袋にとって住みやすくなると思います。



これは地域で自分と通じやすい課題です。なのでまずは自分の地域の特色を理解し、1人1人が意識する事が大切です。また、この問題には再開が必要だと考えます。再開をする事で水害や水害の対応が出来ます。また、誰でも利用しやすいものになれば高齢者の割合が多いため、沼袋にとって住みやすくなると思います。

評価 A

感想欄：地域の一員として暮らす中学生の自分は、よりよい地域のために何かができるだろうか。

沼袋の特色を理解し、それについての対応を考えること

祭りなど、交流の場に積極的に参加し、つながりを残すこと

6 よりよい地域の在り方を考える

小単元の問い：沼袋が誰にとっても住み続けられるよりよい地域となるためにはどうしていくべきか。

目標：10年後の、誰にとっても「キラリ輝く沼袋」とはどのような町なのかを考えよう！

10月某日。「よりよい沼袋の在り方」を議題とする中野区主催意見交換会の会場にいます。ここには、区長を始め、中野区議会議員数名、そして地域のみなさんが参加しており、あなたは地域に暮らす中学生代表として参加しています。

司会：令和3年5月に決定された「中野区基本構想」において、10年後に目指すまちの姿が発信されています。そこには、「つながる はじまる なかの」とあり、中野から日本全国に地域の在り方を発信させようとする思いが見取れます。

それを受けて、今回は、「沼袋」のよりよい在り方を考えていきたいと思えます。地域発展の研究にお詳しい3名の専門家にもお越し頂いております。イクメー教授、マテヨ教授、ツナガロ一教授です。(拍手パキパキ)

では、さっそく各教授に地域の在り方について、ご意見を伺いたいと思えます。

「10年後の誰にとってもキラリ輝く沼袋、防災・減災も含めた沼袋のよりよい在り方について、皆さんはどのようにお考えですか。」

イクメー教授：「皆さんもご存じの通り、この沼袋商店街をもっと活気あふれるものにする必要があります。まずは、街を活性化させましょう。」

マテヨ教授：「いやいや、それは違う。昨今の自然災害をご存じないのですか。自然環境にどう向き合うべきなのか、これをもう一度考え直す必要はありませんか。」

ツナガロ一教授：「お二人の意見もわかります。ですが、災害時において、一番は人のつながりです。減災の意味も踏まえて、まずは地域のつながりから考えませんか。」

司会：「なるほど。難しい問題です。中学生であるあなたのご意見を率直に聞かせてください。」
専門家3名の意見が真っ向対立です。そこで、中学生代表であるあなたに、司会者から回答を求められました。何と答えますか。



1 前時グループ討議内容の発表原稿とメモ欄

★他グループの意見を聞いて、自分とは異なるなっった視点や考え方、根拠などをメモしよう。

2 個人の考察、構想 (再度)

意見交換会も終盤に差し掛かってきました。

司会：これまで、10年後の誰にとってもキラリ輝く沼袋について、たくさんの議論を重ねてきました。こうしている今にも、首都直下型地震が起こっても不思議ではありません。改めて、これまでの討論を聞いて、「防災・減災も含めた沼袋のよりよい在り方」とは、どのような在り方なのでしょう。か。今一度、中学生代表の方に聞いてみますね。では、お願います。



注意点★ ①：誰にとっても納得できるような意見とするために、多角的な内容に、考慮して意見を差えること。(すべてを満たせるように最大限、努めること。)
②：既習事項を使い、資料など根拠をしっかりと示しながら回答すること。

(2) グループの最終意見をまとめよう。

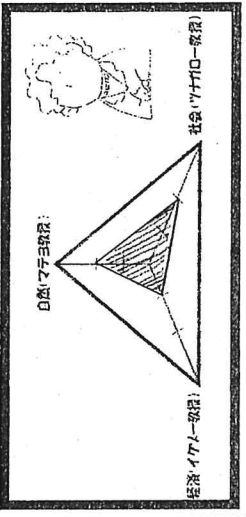
評価のポイント (全体の流れで評価する)

- () ① 沼袋の地域的特色を捉え、資料など既習事項を活用し、よりよい在り方を適切に表現している
- () ② 様々な立場を考えよりよい地域となるよう、いろいろな面から具体的に表現している

理由：私が考えるよりよい沼袋の在り方は(防災)に特化した町づくりをしていくことだと思えます。

なぜなら、沼袋は木造の建物が多くあり、火災の危険性が高いです。また、商店街の活性化も必要ですが、まずは防災を最優先に考えたいです。

具体的な在り方としては、全体的に木造風迎いが出来るようにしたいです。また、水防対策も必要です。また、商店街の活性化も必要ですが、まずは防災を最優先に考えたいです。



3分程度で資料を2つ

避難場所の人ごらなから見たら、この中心地にも避難場所が不足しているように思えます。この他、他地域にも避難場所を増やす必要があり、また、避難経路の確保も必要です。

避難経路も確保したいです。また、商店街の歴史文化資源なども活用し、沼袋の魅力をPRしたいです。また、避難場所を増やす必要があり、また、避難経路の確保も必要です。

感想欄：地域の一人ひとりに関わりを持ち、地域イベントにも参加すること

地域の一人ひとりに関わりを持ち、地域イベントにも参加すること

★他グループの意見を聞いて、自分とは異なる点や考えた視点や考え、根拠などをメモしよう。

2. 個人の考察、構想 (再度)

意見交換会も終盤に差し掛かってきました。

司会 : これまで、10年後の誰にとってもキラリ輝く沼袋について、たくさん議論を重ねてきました。こうしている今にも、首都直下型地震が起こっても不思議ではありません。改めて、これまでの議論を聞いて、「防災・減災も含めた沼袋のよりよい在り方」とは、どのような在り方なのでしょう。か。今一度、中学生代表の方に聞いてみますね。では、お願いします。

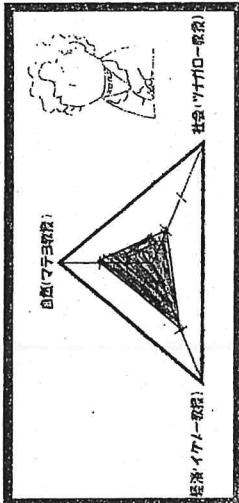
- 注意★ ①: 誰にとっても納得できるような意見とするために、多面的・多角的な内容に考慮して意見を考えること。(すべてを満たせるように最大限、努めること。)
- ②: 既習事項を使い、資料など根拠をしっかりと示しながら回答すること。



(2) グループの最終意見をまとめよう。

評価のポイント (全体の流れで評価する)
(a) ① 沼袋の地域的特色を捉え、資料など既習事項を活用し、よりよい在り方を適切に表現している
(b) ② 様々な立場を考えよりよい地域となるよう、いろいろな面から具体的に表現している

理由: 自分たちの考えの悪い沼袋は、
誰かが安心して暮らしても、活気あ
れる街にできることだと思ってる。そのた
めには、市が災害をすることを経済を高
めることが大切だろ。沼袋は、
身近な土地や調査団から土地が色々あることと、地域の在り方の
資料団から沼袋は本意であることが言われてる。そのため、水害水
災といった災害が避けられない。なので、市からの火災の原因を無くすことが
必要だろう。他地を中心に自然公園を増やすと、水害の
被害を減らすことができる。とはいかないが、具体的に自然を増やすことで雨水を貯めておく



感想欄: 地域の一人として暮らす中学生の自分は、やはり地域のために何が出来るだろうか。
近所の方に相談をしよう。社会とのつながりをもつ
あつま川などの地域イベントに参加し、地域の発展を促す

でも明けてくると、傾斜水害に悩まされるなどの反対も出てくる。また、火災発生時に火の
広がりを抑えたり、公園を避難場所として活用することによって、10年後に人が密集しな
くなり、屋敷並みなどの二次災害も防げるだろう。でも、普通も人が集まりやすいところな
り、築きやすさのデメリットは、米津海を高めるとしても、その系統を高くすることでは
また、よりよい街にするには、米津海を高めるとしても、その系統を高くすることでは
本造建築の2、3、電柱の地味化など、道幅が狭くなること、緊急車両の
通行を可能にしたり、火の広がりも防げることも可能になる。そして、普段も道が広い
と通りやすいため、人が通りやすくなり、より多くの人が交通するようになるので、
街に活気があふれるはずだ。

6よりよい地域の在り方を考える

氏名

★他グループの意見を聞いて、自分とは異なった視点や考え方、視座などをメモしよう。

小委員の問い：「沼袋が誰にとっても住み続けられるよりよい地域になるためにはどうしていくべきか。」

目標：10年後の、誰にとっても「キラリ輝く沼袋」とはどのような町なのかを考えよう！

10月某日、「よりよい沼袋の在り方」を議題とする中野区主催意見交換会の会場にいます。ここには、区長を始め、中野区議会議員数名、そして地域の人々らが参加しており、あなたは地域に暮らす中学生代表として参加しています。

司会：令和3年5月に改定された「中野区基本構想」において、10年後に目指すまちの姿が発信されています。そこには、「つながる はじまる 活かす」の3つがあり、中野から日本全国に地域の在り方を発信させようとする思いが見えます。

それを受けて、今回は、「沼袋」のよりよい在り方を考えていきたいと思えます。地域発展の研究にお詳しい3名の専門家にもお越し頂いております。イクメー教授、マテヨ教授、ツナガロ一教授です。（拍手パキパキパン）

では、さっそく各教授に地域の在り方について、ご意見を伺いたいと思います。

「10年後の誰にとってもキラリ輝く沼袋、防災・減災も含めた沼袋のよりよい在り方について、皆さんはどのようにお考えですか。」

イクメー教授：「皆さんもご存じの通り、この沼袋商店街をもっと活気あるものにする必要があります。まずは、街を活性化させましょう。」

マテヨ教授：「いやいや、それは違う。昨今の自然災害をご存じないのですか。自然環境にどう向き合うべきなのか、これをもう一度考え直す必要はありませんか。」

ツナガロ一教授：「お二人の意見もわかります。ですが、災害時において、一番は人のつながりです。防災の意味も踏まえて、まずは地域のつながりから考えませんか。」

司会：「なるほど。難しい問題です。中学生であるあなたのご意見を率直に聞かせてください。」
専門家3名の意見が真っ向対立です。そこで、中学生代表であるあなたに、司会者から回答を求められました。何と答えますか。



1 前時グループ討議内容の発表原稿とメモ欄

千藤先生の発表を聴き終った後、先生から「皆さん、前日、千藤先生は『20年後の在り方』というテーマで発表されました。その中で、防災・減災も含めた沼袋の在り方について、皆さんはどのようにお考えですか。また、街を活性化させるためにはどうすればいいか、という質問もいただきました。皆さん、この質問について、どのようにお考えですか。発表の原稿とメモ欄に記入してください。」

2 個人の考察、構想(再度)

意見交換会も終盤に差し掛かってきました。

司会：「これまで、10年後の誰にとってもキラリ輝く沼袋について、たくさんの議論を重ねてきました。こうした今にも、首都直下型地震が起こっても不思議ではありません。改めて、これまでの議論を聞いて、「防災・減災も含めた沼袋のよりよい在り方」とは、どのような在り方なのか。今一度、中学生代表の方に聞いてみますね。では、お願いします。」



注意★ ①：誰にとっても納得できるような意見とするために、多面的・多角的な内容に考慮して意見を考えること。(すべてを満たすように最大限、努めること。)

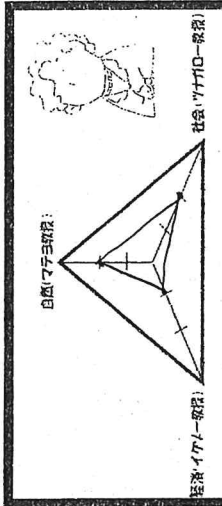
②：既習事項を使い、資料など根拠をしっかりと示しながら回答すること。

(2) グループの最終意見をまとめよう。

評価のポイント (全体の流れで評価する)

- (c) ① 沼袋の地域的特色を捉え、資料など既習事項を活用し、よりよい在り方を適切に表現している
- (c) ② 様々な立場を考慮し、よりよい地域となるよう、いろいろな面から具体的に表現している

理由：10年後の在り方として、防災・減災も含めた沼袋の在り方について、皆さんはどのようにお考えですか。また、街を活性化させるためにはどうすればいいか、という質問もいただきました。皆さん、この質問について、どのようにお考えですか。発表の原稿とメモ欄に記入してください。



10年後の在り方として、防災・減災も含めた沼袋の在り方について、皆さんはどのようにお考えですか。また、街を活性化させるためにはどうすればいいか、という質問もいただきました。皆さん、この質問について、どのようにお考えですか。発表の原稿とメモ欄に記入してください。

千藤先生の発表を聴き終った後、先生から「皆さん、前日、千藤先生は『20年後の在り方』というテーマで発表されました。その中で、防災・減災も含めた沼袋の在り方について、皆さんはどのようにお考えですか。また、街を活性化させるためにはどうすればいいか、という質問もいただきました。皆さん、この質問について、どのようにお考えですか。発表の原稿とメモ欄に記入してください。」

感想欄：地域の一人として暮らす中学生の自分は、よりよい地域のために何ができるだろうか。

7月10日、沼袋の在り方について、自分とは異なった視点や考え方、視座などをメモしよう。

自然、あふれ出すトで「にび」地、い子...。人々自然が「か」い「ハ」フコニニマニマとて、
として(鬼力)自得して(空集)して、子地球が少テ、道路も子あ子也又ヨ...

細で私ほ、小てい子から おいひるゝ方まで"観しぬま。

昭徳の昭和周、建物(在王位)とて、及いこ、及通ワカ"狭い。

自是草この子子供が危いので、かとちやうし、(自然)人か、コニニク
ニニとと水子。今の子子おだやか子街にしていまて、い、

15 地域の存在あり。

(古い人が残っているから、補足を高齢者人口が多...?)

6 よりよい地域の在り方を考える

番 氏名

小単元の問い: 沼袋が誰にとっても住み続けられるよりよい地域になるためにはどうしていくべきか。

目標: 10年後の、誰にとっても“キラリ輝く沼袋”とはどのような町なのかを考えよう!

10月某日。「よりよい沼袋の在り方」を議題とする中野区主催意見交換会の会場にいます。ここには、区長を始め、中野区議会議員数名、そして地域のみなさんが参加しており、あなたは地域に暮らす中学生代表として参加しています。

司会: 令和3年5月に改定された「中野区基本構想」において、10年後に目指すまちの姿が発信されています。そこには、「つながる はじまる なかの」とあり、中野から日本全国に地域の在り方を発信させようとする思いが見取れます。

それを受けて、今回は、「沼袋」のよりよい在り方を考えていきたいと思えます。地域発属の研究にお詳しい3名の専門家にもお越し頂いております。イクメー教授、マテヨ教授、ツナガロ一教授です。(拍手パチパチパチ)

では、さっそく各教授に地域の在り方について、ご意見を伺いたいと思えます。「10年後の誰にとってもキラリ輝く沼袋、防災・減災も含めた沼袋のよりよい在り方について、皆さんはどのようにお考えですか。」

イクメー教授: 「皆さんもご存じの通り、この沼袋商店街をもっと活気あふれるものにする必要があります。まずは、まずは、街を活性化させましょう。」

マテヨ教授: 「いやいや、それは違う。昨今の自然災害をご存じないのですか。自然環境にどう向き合うべきなのか、これをもう一度考え直す必要はありませんか。」

ツナガロ一教授: 「お二人の意見もわかります。ですが、災害時において、一番は人のつながりです。減災の意味も踏まえて、まずは地域のつながりから考えませんか。」

司会: 「なるほど。難しい問題です。中学生であるあなたのご意見を率直に聞かせてください。専門家3名の意見が真っ向対立です。そこで、中学生代表であるあなたに、司会者から回答を求められました。何と答えますか。」



1 前時グループ討議内容の発表原稿とメモ欄

Blank lines for writing the group discussion report and notes.

★他グループの意見を聞いて、自分とは異なるなったり視点や考え、類似などをメモしよう。

2 個人の考察、構想 (再度)

意見交換会も最終に差し掛かってきました。

司会: これまで、10年後の誰にとってもキラリ輝く沼袋について、たくさん議論を重ねてきました。こうした今にも、首都直下型地震が起こっても不思議ではありません。改めて、これまでの議論を聞いて、「防災・減災も含めた沼袋のよりよい在り方」とは、どのような在り方なのでしょう。今一度、中学生代表の方に聞いてみますね。では、お願いします。



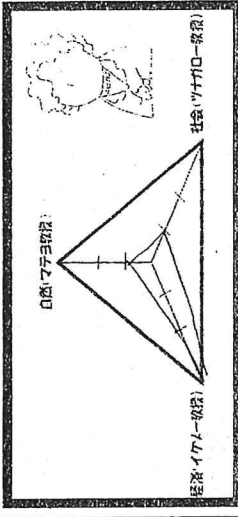
注意★ ①: 誰にとっても納得できるような意見とするために、多面的・多角的な内容に考慮して意見を考えよう。(すべてを満たせるように最大限、努めること。) ②: 既習事項を使い、資料など根拠をしっかりと示しながら回答すること。

(2) グループの最終意見をまとめよう。

評価のポイント (全体の流れで評価する)

- (6) ① 沼袋の地域的特色を捉え、資料など既習事項を活用し、よりよい在り方を適切に表現している (6) ② 様々な立場を考えよりよい地域となるよう、いろいろな面から具体的に表現している

理由: 自分は、沼袋を盛り上げる町で、みんなが楽しく暮らしたい。防災・減災も含めた沼袋のよりよい在り方を実現するために、まずは、街を活性化させよう。



自分とは異なるなったり視点や考え、類似などをメモしよう。自分とは異なるなったり視点や考え、類似などをメモしよう。自分とは異なるなったり視点や考え、類似などをメモしよう。

感想欄: 地域の一人として暮らす中学生の自分は、よりよい地域のために何ができるだろうか。ぜひ、行事に参加すること。ぜひ、行事に参加すること。ぜひ、行事に参加すること。

公園、公園とか、その幅を空けるか。していかないと。 (緑のネットワーク)
ただ、木陰はざわざわで、スペースが広い。(緑帯)

補足2 (人口密度の所)

なので、マンションを何軒かつくって、コンクリートにして、それに、草木を植える。
また、マンションは、縦にたいてい、横にスペースが空く。そこを、花壇にすること。
新しく入ってきても、13人な世代の住民が、触れ合える所、他の地球儀とかで、
接するところがある所。フラット行きた(53)所にし、災害対策として。

← ビンガの資料の D2 で書かぬ。マンションに於いて、地域住民の
つなかりの弱さ、コミュニティを希薄に、対しての意見

③ 災害における他地域の補助の④(53)での、災害時の公園の使い方のよう。

整備すること、安心、安全、つながり、113人を役割として(2)に於ける。

でも、現在、緑帯には、高齢者が多く、(緑のネットワーク) (補足1) (7) 見ると、地域に浸透を、2183人が分かる。
その人たちの、たいてい、ささる、113人の人が、問題だ。

一番の、

商店街のたぎりは、ないからと、大手チェーンを増やして、意味が、全113人。だから、新しい、マンションを建て、
113人な所から人を呼ぶことによ、(電車の乗降客数の、資料)で、分かんない、急行がまじり所を真ん中として、
改善を、113人の、石(1)も、少し、改善されるだけ、でも、そこから、この変わった113人が、台にまじり、まじりまじり、
今ある、神社や寺の観光資源を使、て、人を呼ぶことに、力を、使、て、113人。

地図のやつ

補足5 のこと

他グループの意見を聞いて、自分とは異なる視点や考え、根拠などをメモしよう。

個人の考察、構想(再度)

意見交換会も終盤に差し掛かってきました。

会：これまで、10年後の誰にとってもキラリ輝く沼袋について、たくさんの議論を重ねてきました。こうしている今にも、首都直下型地震が起こっても不思議ではありません。改めて、これまでの議論を聞いて、「防災・減災も含めた沼袋のよりよい在り方」とは、どのような在り方なのでしょう。か、今一度、中学生代表の方に聞いてみますね。では、お願いします。

注意★ ①：誰にとっても納得できるような意見とするために、多面的・多角的な内容に考慮して意見を考えること。(すべてを満たせるように最大限、努めること。)

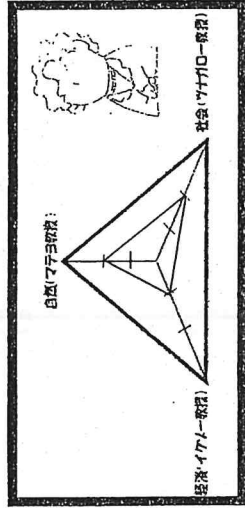
②：既習事項を使い、資料など根拠をしっかりと示しながら回答すること。

2) グループの最終意見をまとめよう。

面のポイント (全体の流れで評価する)

e) ① 沼袋の地域的特色を捉え、資料など既習事項を活用し、よりよい在り方を適切に表現している

e) ② 様々な立場を考えよりよい地域となるよう、いろいろな面から具体的に表現している



理由：沼袋の特色を捉え、資料など既習事項を活用し、よりよい在り方を適切に表現している

は、人々の暮らしをよりよくする

沼袋の特色を捉え、資料など既習事項を活用し、よりよい在り方を適切に表現している

地であること、そして水産住環境

集であること、そして高齢人口

20%を占めている事(沼袋)のりであるように、災害が、かたは、弱者
 にも、また、(沼袋)では、20%以下と非常に少ないです。沼袋は、
 沼袋で、災害が、起ると、隙、地球の人々と同じように、
 大切であること、そして、南店街、地、あるの、で、出、を、
 評価 **A**

感想欄：地域の一人として暮らす中学生の自分は、よりよい地域のために何かができるだろうか。
地、あること、そして、南店街、地、あるの、で、出、を、

キャンション等もいろいろあった。(発表も開く)

人とのつながりもつくるために商店街を利用
 する事は、活性化を促し、経済にも影響
 があると思えます。そして、自然環境を保全し、災害
 を止める(水防等)等として、木造の石造のハイムなど
 行えれば自然環境についての子供が、心 にたするので
 はないかと。また、地域をよりよくする事は、~~沼袋~~の
よりよい地域にたすることです。

他グループの意見を聞いて、自分とは異なった視点や考え、根拠などをメモしよう。

① 個人の考察、構想 (再度)

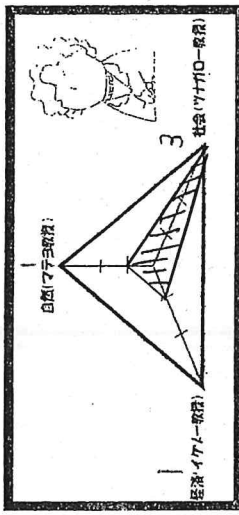
意見交換会も終盤に差し掛かってきました。

会 : これまで、10年後の誰にとってもキリ輝く沼袋について、たくさん議論を重ねてきました。こうしている今にも、首都直下型地震が起こっても不思議ではありません。改めて、これまでの議論を聞いて、「防災・減災も含めた沼袋のよりよい在り方」とは、どのような在り方なのでしょう。今一度、中学生代表の方に聞いてみますね。では、お願いします。

注意★ ①: 誰にとっても納得できるような意見とするために、多面的・多角的な内容に考慮して意見を考えること。(すべてを満たせるように最大限、努めること。)
 ②: 既習事項を使い、資料など根拠をしっかりと示しながら回答すること。

② グループの最終意見をまとめよう。

価値のポイント (全体の流れで評価する)
 a) ① 沼袋の地域的特色を捉え、資料など既習事項を活用し、よりよい在り方を適切に表現している
 b) ② 様々な立場を考えよりよい地域となるよう、いろいろな面から具体的に表現している



理由: 香の考えよりよい沼袋は「誰もが助けを求められる町」だと思ってる。という考えを堂でいえる人物。植業や、子供連れの家族、高齢者や外国人を含めた沼袋に住み続けたい。沼袋と関わり合いの人たちが困った時に助けを求められる町にしたい。沼袋から出す助けを求められるといくことは、沼袋が強い町にしたい。いと思うので、例えば、地域の在り方、沼袋のよさを沼袋にある歴史の建造物、何かに生かしたり、地域の人たちがたくさん参加している祭りを活用したり、沼袋と人との交流を増やそう。他にも公園を増やそう。

感想欄: 地域の一員として暮らす中学生の自分は、よりよい地域のために何が出来るだろうか。あまり地域のことに興味がなかったけれど、もっと沼袋を

沼袋

沼袋の歴史を少し知り、子供連れの人が多く、とくらしやすくなった。りするので交流の場としてもありたい存在に存在と思う。しかし、現状沼袋地域の沼袋は火災の心配がなかなかなさくないと思うので、少しがっかり。再開を進めたいこと。より多くの人がより安心して生活できるとなるといい。

他グループの意見を聞いて、自分とは異なった視点や考え、根拠などをメモしよう。

個人の考察、構想 (再度)

意見交換後も総盤に差し掛かってきました。

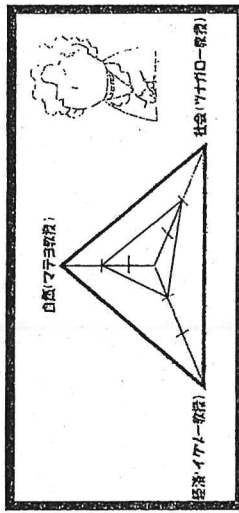
会 : これまで、10年後の誰にとってもキラリ輝く沼袋について、たくさんの議論を重ねてきました。こうしている今にも、首都直下型地震が起こっても不思議ではありません。改めて、これまでの議論を聞いて、「防災・減災も含めた沼袋のよりよい在り方」とは、どのような在り方なのでしょう。今一度、中学生代表の方に聞いてみますね。では、お願いします。

注意★ ①: 誰にとっても納得できるような意見とするために、多面的・多角的な内容に考慮して意見を考えること。(すべてを満たせるように最大限、努めること。) ②: 既習事項を使い、資料など根拠をしっかりと示しながら回答すること。

2) グループの最終意見をまとめよう。

面のポイント (全体の流れで評価する)
a) ① 沼袋の地域的特色を捉え、資料など既習事項を活用し、よりよい在り方を適切に表現している
b) ② 様々な立場を考慮し、よりよい地域となるよう、いろいろな面から具体的に表現している

理由: 私は、沼袋の在り方として、地域全体がよりよい災害から起きても助け合いできる地域が、絶対ない地域がよいと思います。でも、沼袋は水災などの災害に弱い(地域の在り方四)緑地を少なく(地域の在り方四)ことが分かります。大きな震災があった際に避難所として使ったり、水災の防止を促す公園がなければ、特に災害弱者となる人々には"誰にとっても"良いとはいえない。公園などをよりよく増やすことはできませんが、それが増やしていきば改善されていくと私は思います。また、震災の復興



評価 A

感想欄: 地域の一員として暮らす中学生の自分は、よりよい地域のために何かできるだろうか。今まで災害があったら"まだ自分だけ"という考え方をしていたが、これから地域の人とコミュニケーションを取り、災害がなければ"みんなが"という考え方をしたい。自助で

において、大切なことは人々とのつながり(東北図6)だと思っています。沼袋には、良い点として寺院や歴史的な文化資源が多い(地域の在り方田2)ことが挙げられます。例えば"それらを活用し祭りを開催すれば、つながりが強まり経済的な効果(東北図2)も得られるはず"です。私は沼袋に住んでいます。私が考える在り方は地域全体がこのようのものでありたいな、と思っています。

他グループの意見を聞いて、自分とは異なる視点や考え、根拠などをメモしよう。

2. 個人の考察、構想 (再度)

意見交換後も最終に差し掛かってきました。

会 : これまで、10年後の誰にとってもキラリ輝く沼袋について、たくさん議論を重ねてきました。こうして今にも、首都直下型地震が起こっても不思議ではありません。改めて、これまでの議論を聞いて、「防災・減災も含めた沼袋のよりよい在り方」とは、どのような在り方なのでしょう。今一席、中学生代表の方に聞いてみますね。では、お願いします。

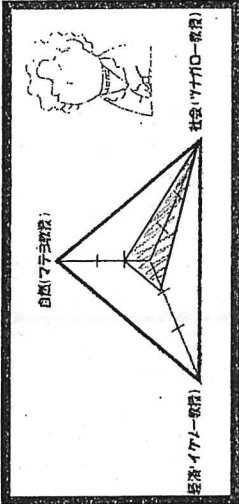
- 注意★ ①: 誰にとっても納得できるような意見とするために、多面的・多角的な内容に考慮して意見を考えること。(すべてを満たせるように最大限、努めること。)
- ②: 既習事項を使い、資料など根拠をしっかりと示しながら回答すること。

(2) グループの最終意見をまとめよう。

価値のポイント (全体の流れで評価する)

- (○) ① 沼袋の地域的特色を捉え、資料など既習事項を活用し、よりよい在り方を適切に表現している
- (○) ② 様々な立場を考えよりよい地域となるよう、いろいろな面から具体的に表現している

理由: 私が考えるよりよい沼袋の在り方は、誰でも仲良く助け合える町。誰でもとほとほ元々元気だった人から入りました人、高齢者から若者まで、私は沼袋の昔からある神社・寺院を



活かした取り組みと、個人営業の店が立ち並び、沼袋商店街を活かした取り組みの2つ実施していけば良いと考え、(既習事項) 7月には昔からある神社・寺院を遊歩道に取組、神社や寺院を四季折々の花で飾るだけでなく、沼袋・神社・寺院のAで観光資源にもなるかを、Aの浅草の歴史の建造物を観光資源にするという取り組みも、事前に改定すれば、昔ながらの建物を活かすこと、

感想欄: 地域の一員として暮らす中学生の自分には、よりよい地域のために何かができるだろうか。・祭りや防災訓練に積極的に参加する、秋葉原・有明公園に立ち込んで、周りの人々が暮らす中で、実際に災害が起きたとき助け合いたい。そこから、下町にある、

外国人観光客や、インターネットスポーツとして若者にも人気があるかも知れない。このようにに神社・寺院を四季折々の花で華やかにして、観光資源にし、そこから人のつながりも経済も回復できれば良いと思う。

27日は沼袋商店街を活かした取り組み。短所でも長所でもある

個人営業の店が立ち並んでいるところを活かし、沼袋田 20, 21, 22 などのように商店街の存在をやっている人も他の人も参加できる防災訓練や祭りを、北団図の実施して、人のつながりを強める。人のつながりが強まれば、防災訓練のおかげで、実際に災害が起きたときにも助け合えるというメリットがある。

昔から私が考える沼袋のよりよい在り方は、誰でも仲よく助け合える町。高齢者も若者

世グループの意見を聞いて、自分とは異なった視点や考え方、根拠などをメモしよう。

個人の考察、構想(再度)

意見交換会も総盤に差し掛かってきました。

会 : これまで、10年後の誰にとってもキラリ輝く沼袋について、たくさん議論を重ねてきました。こうしている今にも、首都直下型地震が起こっても不思議ではありません。改めて、これまでの議論を聞いて、「防災・減災も含めた沼袋のよりよい在り方」とは、どのような在り方なのでしょう。か。今一層、中学生代表の方に聞いてみますね。では、お願いします。

注意★ ①: 誰にとっても納得できるような意見とするために、多面的・多角的な内容に考慮して意見を考えること。(すべてを適正なように最大限、努めること。)

②: 既習事項を使い、資料など根拠をしっかりと示しながら回答すること。

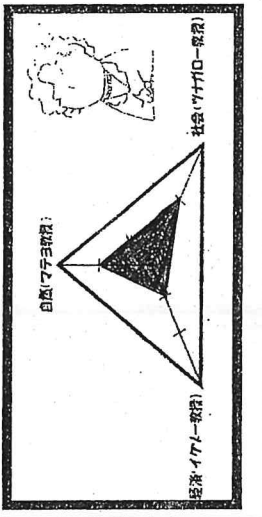
2) グループの最終意見をまとめよう。

五のポイント (全体の流れで評価する)

① 沼袋の地域的特色を捉え、資料など既習事項を活用し、よりよい在り方を適切に表現している

② 様々な立場を考えよりよい地域となるよう、いろいろな面から具体的に表現している

理由: 私自身、よりよい沼袋の在り方、誰もが安心して暮らすこと、住むべき場所であること、などと思う。そのため、公園を中心とした在り方が、セカンドに思。た、[4]の補足見解。沼袋は中野区の中でも特に人口密度が低いところだから、たくさん住むことができるだろう。地域に住む人が関わりやすい場所を公園だと思。う。しかし、[4]の補足4から沼袋には公園が少なからず公園面積が少いことがわかる。だから、沼袋には新しく公園が造られることが望ましいと思。った。公園があれば、子供も安心して遊べたり、一歩裏



評語 A

感想: 地域の一員として暮らす中学生の自分は、よりよい地域のために何かができるだろうか。土地或に住む人との関係を深めること。

土地或に住む人が集まり、歴史があり、公園は火災の影響を受けにくく、住居自土のつながりなことが、震災後の居住性にもつながる。だから、よりよい沼袋には公園を中心としたつながりなことが大切だと思。った。

他グループの意見を聞いて、自分とは異なる点や考え、根拠などをメモしよう。

個人の考察、構想 (再度)

意見交換会も終盤に差し掛かってきました。

会 : これまで、10年後の誰にとってもキラリ輝く沼袋について、たくさんの議論を重ねてきました。こうしている今にも、首都直下型地震が起こっても不思議ではありません。改めて、これまでの討論を聞いて、「防災・減災も含めた沼袋のよりよい在り方」とは、どのような在り方なのでしょう。か、今一度、中学生代表の方に聞いてみますね。では、お願いします。

- ★注意 : ①: 誰にとっても納得できるような意見とするために、多面的・多角的な内容に考慮して意見を考えること。(すべてを満たせるように最大限、努めること。)
- ②: 既習事項を使い、資料など根拠をしっかりと示しながら回答すること。

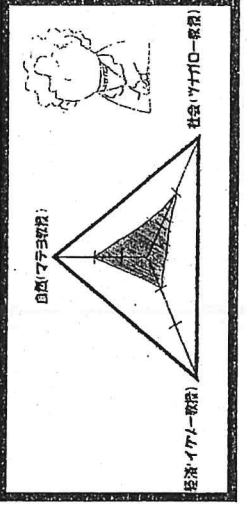
2) グループの最終意見をまとめよう。

皿のポイント (全体の流れで評価する)

① 沼袋の地域的特色を捉え、資料など既習事項を活用し、よりよい在り方を適切に表現している

② 様々な立場を考えよりよい地域となるよう、いろいろな面から具体的に表現している

理由: 沼袋は、団のう「地域」に暮らす
人々のつながりから見る沼袋でも、
分かれるように「地域」コミュニティを構築
夏祭りなど、つながりを深め、暮らす
やすい地域にするという活動が



行われているため、無理に再開を促す必要はないと思います。5グループの
の発表にちなみ、西武東上線は地下化をするため、その跡地に
公園や広場などをつくれれば、よりよいつながりが増えるのではな
いでしょうか。そして、この公園が「これは、地域のいい場所として、引
き寄せたい場所として、一時避難場所」

感想欄: 地域の一角として暮らす中学生の自分は、よりよい地域のために何ができるだろうか。
消防や年回りに所蔵している。有事の際は、人々の避難場所、有事には人々に防災について
伝えてもらったり、人々のつながりを深める活動がしたいなと思います。

評価 A

としても、多面的に機能できるように思います。
沼袋は、資料の補足を4も見ても分かるように、沼袋は
1人あたりの公園面積が1ha以下という課題があるため、
この課題の改善にもつながり、さらに火災などの延焼拡大防止
にも効果があり、良いかなと思います。このような公園を
つくれば、誰も嫌な思いをせず、よりよい地域をつくら
いけると思います。

沼袋の治安を
損わすに

グループの意見を聞いて、自分とは異なった視点や考え、アイデアをメモしよう。

2. 個人の考察、構想 (再度)

意見交換会も終盤に差し掛かってきました。

【会】これまで、10年後の誰にとってもキラリ輝く沼袋について、たくさん議論を重ねてきました。こうしている今にも、首都直下型地震が起こっても不思議ではありません。改めて、これまでの議論を聞いて、「防災・被災も含めた沼袋のよりよい在り方」とは、どのような在り方なのでしょう。今一度、中学生代表の方に聞いてみますね。では、お願いします。

- 【注意】★ ①: 誰にとっても納得できるような意見とするために、多面的・多角的な内容に考慮して意見を考えること。(すべてを満足させるように最大限、努めること。)
- ②: 既習事項を使い、資料など根拠をしっかりと示しながら回答すること。

(2) グループの最終意見をまとめよう。

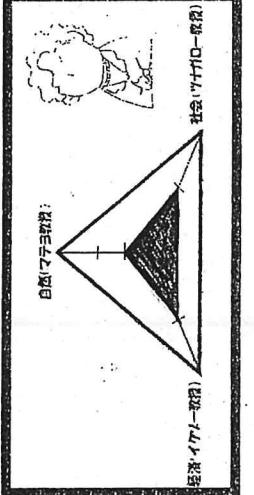
【価値のポイント】(全体の流れで評価する)

(a) ① 沼袋の地域の特徴を捉え、資料など既習事項を活用し、よりよい在り方を適切に表現している

(b) ② 様々な立場を考えたよりよい地域となるよう、いろいろなる面から具体的に表現している

理由: 沼袋のまちを災害に強いまちに、守りに育らせるまちにしたい。その在り方は、沼袋の本質や商店街の活気などの課題を解決し、地域が元気なまちになるようにしたい。そして、地域の在り方を大切にするようにしたい。

店街にビルが建って感じている人が30%以上いる。閑静な住宅街にビルが建つのは、まちの景観を損ねる。ビルが建つのは、まちの歴史や文化を損ねる。ビルが建つのは、まちの歴史や文化を損ねる。ビルが建つのは、まちの歴史や文化を損ねる。



【感想】地域の一人として暮らす中学生の自分は、よいよい地域のために何かができるだろうか。沼袋の現状をよく知り、子どもたちは何を考え、実行していく!!

評価 A

とって納得のいく、むしろ、応援し、自分もできることと考へ、柳川合、2 自分たちのまちを大切にしたいと思う。災害が起きた時の被害を最小限にし、そのまちの魅力を上げていくために、ふたつでいくために、それぞれがとることができることを、この地域としての「結束」(結びつき)に着目し、それぞれがとっていくことが、この地域の「魅力」となる。

私の考えるより「良」在り方とは、沼袋のまちを「若者がふくれ、誰がまちを大切にしている」ことに、わたりに、1人1人がこの地域のことを考へ、自分にできることをとってほしいと思う。

二人が「在り方」を考へ、それぞれが「誰かが」誰かが「このまちの良」として、大好まぬまちに「誘い」をもつてくれるように願う。

いつでもお返事はいいですか? 気のきいたコメントで返してね。また、お返事はいいですか? 気のきいたコメントで返してね。また、お返事はいいですか? 気のきいたコメントで返してね。

6 よりよい地域の在り方を考える

森 氏

小単元の問い：沿袋が誰にとっても住み続けられるよりよい町

目標：10年後の、誰にとっても「キラリ輝く沿袋」とはどのような町なのかを考えよう！

10月某日、「よりよい沿袋の在り方」を議題とする中野区主催意見交換会の会場にいます。ここには、区長を始め、中野区議会議員数名、そして地域のみなさまが参加しており、あなたは地域に暮らす中学生代表として参加しています。

司会：令和3年5月に改定された「中野区基本構想」において、10年後に目指すまちの姿が発信されています。そこには、「つながる はじまる なかの」とあり、中野から日本全国に地域の在り方を発信させようとする思いが見取れます。

それを受けて、今回は、「沿袋」のよりよい在り方を考えていきたいと思えます。地域発展の研究にお詳しい3名の専門家にもお越し頂いております。イクメー教授、マテヨ教授、ツナガロ一教授です。(拍手パチパチパチ)

では、さっそく各教授に地域の在り方について、ご意見を伺いたいと思えます。

「10年後の誰にとってもキラリ輝く沿袋、防災・減災も含めた沿袋のよりよい在り方について、皆さんはどのようにお考えですか。」

イクメー教授：「皆さんもご存じの通り、この沿袋商店街をもっと活気あふれるものにする必要があります。まずは、街を活性化させましょう。」

マテヨ教授：「いやいや、それは違う。昨今の自然災害をご存じないのですか。自然環境にどう向き合うべきなのか、これをもう一度考え直す必要はありませんか。」

ツナガロ一教授：「お二人の意見もわかります。ですが、災害時において、一番は人のつながりです。減災の意味も踏まえて、まずは地域のつながりから考えませんか。」

司会：「なるほど。難しい問題です。中学生であるあなたのご意見を率直に聞かせてください。」
専門家3名の意見が真っ向対立です。そこで、中学生代表であるあなたに、司会者から回答を求められました。何と答えますか。



1 前時グループ討議内容の発表原稿とメモ欄

Blank area for writing the group discussion report and notes.

「他グループの意見を聞いて、自分とは異なる視点や考え、根拠などをメモしよう。」

2 個人の考察、構想(再度)

意見交換会も終盤に差し掛かってきました。

司会：これまで、10年後の誰にとってもキラリ輝く沿袋について、たくさんの方の議論を重ねてきました。こうしている今にも、首都直下型地震が起こっても不思議ではありません。改めて、これまでの議論を聞いて、「防災・減災も含めた沿袋のよりよい在り方」とは、どのような在り方なのでしょう。今一度、中学生代表の方に聞いてみますね。では、お願いいたします。



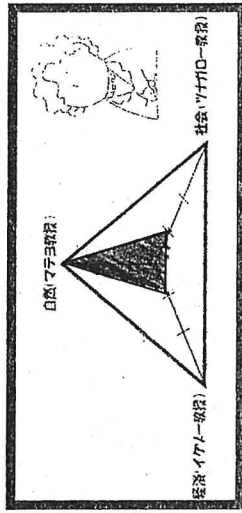
注意★ ①：誰にとっても納得できるような意見とするために、多面的・多角的な内容に考慮して意見を考えます。(すべてを満たせるように最大限、努めること。)
②：既習事項を使い、資料など根拠をしっかりと示しながら回答すること。

(2) グループの最終意見をまとめよう。

評価のポイント (全体の流れで評価する)

- (△) ① 沿袋の地域の特徴を捉え、資料など既習事項を活用し、よりよい在り方を適切に表現している
- (○) ② 様々な立場を考慮し、よりよい地域となるよう、いろいろな面から具体的に表現している

理由：①の資料(1)を見てもらうと、中野区の最近では地球温暖化による海面上昇などの危険が懸念されています。②の危険が軽減されるように、防災意識を高めたいと思います。また、沿袋の賑わいを保つためには、自然環境を大切にし、緑を増やしたいです。また、沿袋の賑わいを保つためには、自然環境を大切にし、緑を増やしたいです。また、沿袋の賑わいを保つためには、自然環境を大切にし、緑を増やしたいです。



感想欄：地域の一員として暮らす中学生の自分は、よりよい地域のために何かができるだろうか。中野区とかには人が住んでいるから、この沿袋が自分たちの家だから、自分たちから何かできるだろうか。自然環境を大切にし、緑を増やしたいです。また、沿袋の賑わいを保つためには、自然環境を大切にし、緑を増やしたいです。また、沿袋の賑わいを保つためには、自然環境を大切にし、緑を増やしたいです。

So Happy♥ 最初は早く歴史の授業していいなと思っていて、地理には全く興味も
ありませんでした。が、友達との意見交換の機会を通して、下ごしらえの面がとやがて
おこなって、自分が自分でできる。時間=コースで、銀座の土地の面積が、下ごしら
えの3月にして、「お世直し」を考えたのが、成長を感じました。

着段お別れ行く期会が、東北・中国・四国・九州 地域の授業をやって、
自分と友達の知識が「あ〜、これと関係があるか!」という気づき、発見にたどり
ついて、楽しんで、学べました。70リットル、見せかけの70リットル!

So Happy♥ 地理はまじで女難いけど、どんな興味を持つよう
にならして、楽しく感じようにならした。

So Happy♥ テスト前は地理の学習を6周ぐらいいないとテストに立ち向かえなくて
少し辛かったけど、授業は楽しかった。先生も千葉先生も「考える授業」と
いう面では同じだが、考える内容が千葉先生の授業は、たいてい人の地域の
課題(事象)に対して、マックスのことをプラスにしようなど、と自分もそこにいたら
と考えさせてくれた。(先生の地理の授業も好き) 今回の地域のありかたの
授業のおかげで、私が普通に過ごしていた時には良いところも危ないところも
あると改めてわかった。

私は沼袋よりも練馬のほうが、道のありかたの授業をやって
のもあって、「この道は緊急車両が通れないな、など、自転車のりながら考える
ようになった。災害は身近なものだと理解させてくれた。

So Happy♥ 私は小学生の頃、社会(地理)がニガテだった。ただ、語句を覚えたり、記述などでも全く何を書いてもいいのかわ
からないと、^{そのまますぐに}たいていこの半年の間でいろいろ資料を見たり、他の人の意見に触れたりして、ま
な面から物事を考えられるようになった。また、3人や4人の班で考えたり話し合ったりして、自分の意見が変わったり、人の意見
や考えを取り入れるたりして、^{多面的・多角的に}物事を見る楽しさを知った。今は地理が大好きになった。話し合いの時間が
あるのは、すごく良いなと思った。

So Happy♥ 暮らしをもっと便利に、豊かにするために農業をするときに気候
の特性も注視したり、交通網が便利なところに人が集まるのは、年生
で学んだ世界も、今年学んだ日本にも共通していたため、面白かった。また、その
土地に住む人の立場になって、なぜ農業に工夫をするのか、再開発の影響
を考えてみて、新しい発見があった。この半年間の地理の学習を通して、地理だ
けではなく、自分の住む日本や土地が
もっと好きになりました。